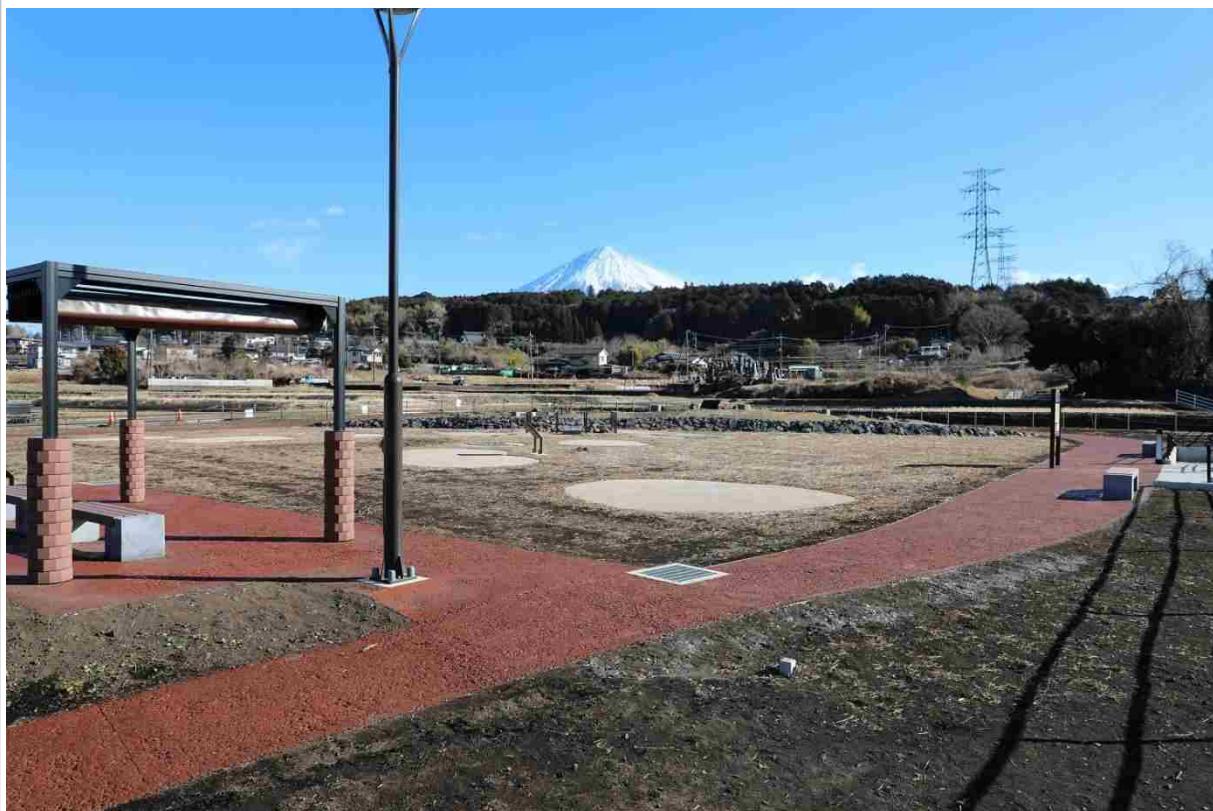


富士宮市文化財年報

第15号

令和6年度



富士宮市教育委員会

富士宮市文化財年報

第15号

令和6年度

富士宮市教育委員会

例　言

- 1 本書は、令和6年度に実施した富士宮市内における文化財保護事業の概要をまとめたものである。
- 2 文化財保護事業は、文化財保存・管理事業、埋蔵文化財事業、郷土資料館事業、歩く博物館事業、市史編さん事業、その他の事業に分類した。
- 3 本書の執筆・編集は、富士宮市教育委員会教育部文化課の各担当（令和7年度）が行った。

4 令和6年度文化財関係組織

教　　育　　長	池谷　眞徳	(令和6年7月6日まで)
同	望月　俊伸	(令和6年7月7日から)
教　　育　　部　　長	石川　佳和	
文化課長兼埋蔵文化財センター所長兼市史編さん室長	中野　香織	
学　　術　　文　　化　　財　　係　　長	渡邊　俊太	(文化財管理担当)
学　　術　　文　　化　　財　　係　　学　　芸　　員	高橋　菜月	(文化財管理担当)
同　　　　　　学　　芸　　員	柿崎　沙織	(文化財管理担当)
埋蔵文化財センター主任学芸員	保竹　貴幸	(埋蔵文化財担当)
同　　　　　　学　　芸　　員	原　　悠翔	(埋蔵文化財担当)
同　　　　　　学　　芸　　員	三上　能	(埋蔵文化財担当)
同　　　　　　会計年度任用職員	小倉　久美	(埋蔵文化財担当)
市　　史　　編　　さ　　ん　　室　　主　　事	小倉　匠	(市史編さん担当)
同　　　　　　学　　芸　　員	松本　将太	(市史編さん担当)
郷土資料館会計年度任用職員	渡井　一信	(郷土資料館担当)
郷土資料館会計年度任用職員	川合　里佳	(郷土資料館担当)

《表紙写真：史跡公園「史跡大鹿窪遺跡」》

目 次

富士宮市文化財年報第 15 号の刊行にあたって	1
I 令和 6 年度の文化財保護事業	
1 概要	3
2 文化財保護事業一年の歩み	4
II 文化財保存・管理事業	
1 文化財保護審議会	7
(1) 文化財保護審議会の開催	
2 指定文化財整備事業	7
(1) 史跡「富士山」整備事業	
(2) 名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」整備事業	
(3) 史跡「大鹿窪遺跡」整備事業	
3 指定文化財保存管理事業	8
(1) 富士宮市文化財保護補助金の交付	
(2) 指定文化財保護対策事業	
(3) 文化財防火デー	
(4) 湧玉池保全検討	
4 (仮称) 富士宮市立郷土史博物館事業	11
(1) 文化財保存管理調査	
(2) 他館視察	
(3) (仮称) 富士宮市立郷土史博物館構想周知事業	
5 富士宮市文化財保存活用地域計画作成事業	12
(1) LINE アンケート	
(2) 市民との意見交換	
(3) 文化財保存活用地域計画協議会の開催	
III 埋蔵文化財事業	
1 整理作業、報告書刊行	13
(1) 『滝戸遺跡Ⅲ』(発掘調査報告書刊行)	
2 開発行為に伴う埋蔵文化財の試掘・確認調査	14
(1) 上宿遺跡	
(2) 月の輪上遺跡	
(3) 峯石遺跡	
3 埋蔵文化財活用事業	18
4 富士宮市埋蔵文化財センター	19
(1) 施設概要	

IV 郷土資料館事業	
1 展示	20
(1) 企画展	
(2) 移動展示パネル	
2 資料収集・保存管理	22
(1) 資料収集	
(2) 保存管理	
V 歩く博物館事業	
1 歩く博物館探索会	24
VI 市史編さん事業	
1 概要	25
2 市史編さん委員会	25
(1) 市史編さん委員会の開催	
3 分野別の活動	25
(1) 民俗	
(2) 考古	
(3) 中世	
(4) 近世	
(5) 近現代	
(6) 市史講演会	
VII その他の事業	
1 問合せ対応	27
2 小中学校総合学習への対応	27
3 講師派遣	27
(1) 富士山まちづくり出前講座	
(2) その他の講座	
資料 i 各委員会等委員名簿	28
資料 ii 富士宮市内指定文化財等一覧	32
資料 iii 市史編さん事業における調査成果	34
• 富士宮市若宮遺跡および黒田向林遺跡出土土器付着物の炭素14年代測定 小林謙一(中央大学)・深澤麻衣(袋井市教育委員会)・米田穣・尾寄大真・ 大森貴之(東京大学 総合研究博物館放射性炭素年代測定室)	
• 富士宮市滝戸遺跡のレプリカ法による土器圧痕の同定 佐々木由香(金沢大学古代文明・文化資源学研究所)・小久保竜也(東京大學院)・柴田実季(東京都埋蔵文化財センター)・小林謙一(中央大学)	

富士宮市文化財年報第 15 号の刊行にあたって

文化課長 中野 香織

『富士宮市文化財年報』第 15 号の刊行にあたり、令和 6 年度の富士宮市文化財保護行政の現状を振り返ってみることにします。

1 史跡大鹿窪遺跡の整備が完成しました

令和 7 年 3 月 31 日、朝は見えていた富士山が雲に隠れ厚手の上着が欲しくなるほど肌寒い中、多くの方に参加いただき史跡大鹿窪遺跡の整備完成式が行われました。テープカットのあと、溶岩流をイメージした丘と集石遺構を囲んでドローンからの記念撮影をした後、市の学芸員から遺跡の解説や隣接する大鹿館での出土遺物の展示などで、地域の皆さんをはじめとした多くの方々に、大鹿窪遺跡の価値を理解いただきました。

史跡大鹿窪遺跡は、平成 13 年に中山間地域総合整備事業に伴う発掘調査によりその存在が明らかになり、縄文時代初めの集落構造のあり方を知ることのできる希少な例として、平成 20 年 3 月に国指定史跡となりました。そして平成 23 年から大鹿窪遺跡保存管理計画、大鹿窪遺跡整備基本計画、基本設計、発掘調査、実施設計、令和 4 年度から 3 年間の工事と長い年月をかけて、この度、遺跡の整備が完成となりました。整備の際の基本理念は、「『富士山の西南麓に営む 縄文ムラのはじまりの体感』ができる空間と時間を創出・継承する。」でありますが、これらは整備して終わりではなく、多くの方々がここを訪れ、体感いただくことで実現していくものだと思います。

完成式からおよそ 1 か月、年度が替わって 4 月 26 日に、第 1 回富士山縄文の学校が大鹿窪遺跡内で行われ、開校記念として、5 種類の体験教室が行われました。教室は、「柚野の里縄文まつり」に関わっている方など地元の有志からなる「大鹿窪遺跡友の会」により企画され、会員が講師となって行われました。どの教室も講師の方々のこれまでの経験や縄文まつりのために縄文時代の人々の暮らしについて調べ、縄文時代や大鹿窪遺跡を理解いただけるように取り組んでこられたものでありますので、参加した皆さんも、縄文時代に思いを馳せながら学習できたかと思います。楽しそうに取り組む子どもたちや、お子さん以上に夢中になっている親の姿など、緑いっぱいの大鹿窪遺跡を背景に和やかな時間となりました。

当日の「縄文の学校」ののぼり旗や、スタッフの縄文衣装など、会場の各所に地域の皆さんのが縄文の学校のために、そして大鹿窪遺跡のもとで地域を盛り上げようと取り組んでいたいたいと感じられ、文化財を守り伝えて行くことは、地域総がかりで取り組む必要があり、また、文化財は地域を元気にすることに貢献できるものだと実感しました。

今後も多くの方に大鹿窪遺跡を知っていただき、地元の皆さんを始めとして、市民の皆さんに御協力いただきながら、この遺跡の保存と活用について取り組んでいきたいと思います。

2 郷土資料館休館の展示について

市民文化会館のリニューアル工事に伴って郷土資料館が休館のため、市内各所で十数回の

展示を行いました。

まず、令和5年に、文化財保存活用地域計画作成のために各地域で伺った地域の歴史文化資源の情報の一部を移動展示で紹介しました。5月の「速報展示山岡鉄舟の書」では、鉄舟の書の屏風やいたいたい情報から市内にある清水次郎長の筆筒を写真で紹介し、また、「富士宮の歴史文化再発見—「上井出地区」「白糸地区」—」展では、朝霧開拓の歴史や水に関する展示を行い、出張所のほか富士開拓農業協同組合様においても展示させていただきました。

その他にも、北山用水（本門寺堀）の世界かんがい施設遺産登録1周年記念展示を北山出張所で、市指定文化財平等寺三門について平等寺のお祭りに合わせて、村山浅間神社社務所完成記念展で社務所内と市内各所で展示させていただきました。

また、静岡県富士山世界遺産センターで県と共に実施した「富士山信仰の拠点となる湧水一湧玉池が育む豊かな生態系—」や市民ホールで開催した「郷土資料館新収蔵品展—描かれた富士の巻狩—」を開催した際は、実物を展示することができました。

このように郷土資料館が休館中も、市民の皆さんに富士宮の歴史文化について伝え続けるために展示を行いましたが、十数回もの回数を実施する中で、展示は一方的な情報発信と感じてしまうことがありました。一方的にならない方法がないかと調べてみた中でわかったことは、展示には作成した学芸員が意図することが表現されていて、使用する資料や写真、説明文だけでなく、説明の切り口、見せ方なども工夫して、見た方々に理解していただけるように展示を作成しているのですが、逆に見る側としてもそれまでの経験や知識によって理解の仕方が変わるのだそうです。一方的と思っていた展示が、その展示に出会うことで、個々の考え方や行動に影響を与えることもあるのであれば、展示によって、人と人が繋がり、富士宮のまちづくりにも貢献できることがあるかもしれません。

今後も展示を続ける中で、市民の皆様とともに作る展示や意見交換などもしていかなければと考えています。

3 むすびに

現在、市では博物館整備を目指しております。

富士宮にどのような歴史文化があったかを説明するためには、その根拠となる資料が必要で、博物館ではこうした資料の収集・保存が大きな役割の1つです。古文書のような文字で書かれたもの、絵や図で表したもの、写真、使われた道具、地下に埋まっていたもの等です。

富士宮の歴史文化では明らかになっていないことが多いので、資料自体からわかることと、当時の日本の時代や社会背景、近隣の地域の資料、同様な出来事の資料などを研究して初めて、市民の皆さんに「富士宮の歴史・文化はこうであった（だろう）」とお伝えできます。逆に、富士宮の歴史文化を明らかにするということは、様々なものから探っていくことかなと考えると、探偵がわからない謎を解いていくことのよう少しわくわくしませんか？

博物館が整備できたなら、市民が地域の文化財を学んだり、市内の各地域の方々からの情報を一緒に調べたり、その結果を展示で知る・体験して親しむなど……博物館で収蔵する資料や、専門知識を持った学芸員、そして博物館という施設の空間を活用し、また、様々な方々や団体と連携して、来館された皆様がわくわくできるような機会をお手伝いできればと考えています。

I 令和6年度の文化財保護事業

1 概要

富士宮市における令和6年度の文化財保護関連事業の概要は、下記のとおりである。

〈文化財保存・管理事業〉

史跡「富士山」、名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」、史跡「大鹿窪遺跡」の各文化財について、各整備委員会等の指導を得て調査・整備等の事業を実施した。

史跡「富士山」については、「村山浅間神社」において村山浅間神社側の石段の上段の発掘調査及び修理を行うとともに、来訪者の安全確保のため、危険木（大杉1本の上部）について伐採した。「富士山本宮浅間大社」において、「史跡富士山「富士山本宮浅間大社」整備活用基本計画」に基づき、参道整備部分の測量を行った。

名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」では、「名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」整備基本計画」（平成23年度策定、令和4年度改定）に基づき、指定地内の景観保全のため、音止の滝東側の景観保全エリアについて、伐採を行い、一部に樹高の低い樹木を植えた。

史跡「大鹿窪遺跡」では、令和3年度に作成した実施設計に基づき、3か年計画で実施してきた整備工事の最終年度事業を実施し、令和7年3月31日にオープンした。

その他、市内指定文化財の保存・管理事業への補助金交付や「狩宿の下馬ザクラ」をはじめとした指定文化財の保護対策事業や、文化財防火デーにおける防火運動の実施、湧玉池の底生生物調査や関係者との意見交換など文化財保存・管理事業を推進した。

(仮称)富士宮市立郷土史博物館については、文化財保存管理調査を行い、埋蔵文化財センター収蔵物の移設に向けた基礎調査を行った。また、関係団体等を訪問し、説明を行い理解を求めた。また、古文書講座等市主催事業の際にも説明を行った。

また、文化財保存活用地域計画作成のために、各種団体への説明や文化財活用にかかる講演会・意見交換会などを開催するとともに、LINEアンケートの調査も行った。

〈埋蔵文化財事業〉

令和3年度に実施した滝戸遺跡の発掘調査の資料整理作業を行い、発掘調査報告書を刊行した。

開発行為に伴う埋蔵文化財の試掘・確認調査を29件実施した。

〈郷土資料館事業〉

市民文化会館リニューアル工事に伴い、市内各所で出張展示を行った。またその間も富士宮の歴史や文化を伝えるための移動展示パネルを作成した。

資料収集・保存管理事業として、文化会館の休館にともなう同館内の郷土資料館の備品・収蔵品の移転、民俗資料等の収集と収蔵品くん蒸を実施した。

〈歩く博物館事業〉

大宮東地区を巡る歩く博物館探索会を令和7年3月22日に開催した。また、北山地区

での探索を 10 月 29 日に計画したが、雨天により中止し臨時の展示説明会を実施した。

〈市史編さん事業〉

市史の分野別に打合せ、調査を継続して実施した。

市史編さん委員会では、ファイル共有システムの導入や、民俗編・通史編Ⅰの刊行に向けた検討を行った。

〈その他の事業〉

市内の歴史・民俗等に関する問合せに対応したほか、小中学校の総合学習（富士山学習）への対応や、富士山まちづくり出前講座等の講師を務めた。

2 文化財保護事業一年の歩み

〈令和 6 年〉

- 4 月 8 日 内久子遺跡埋蔵文化財確認調査実施
- 4 月 11 日 神祖遺跡埋蔵文化財確認調査実施
- 4 月 15 日 牛ヶ沢遺跡埋蔵文化財確認調査実施
- 4 月 17 日 連雀町遺跡埋蔵文化財確認調査完了（3 月 21 日～4 月 17 日）
- 4 月 26 日 古文書講座「古文書を読んで、北山用水について学ぼう」開催
- 5 月 20 日 郷土資料館移動展示「速報展示 山岡鉄舟の書」開催（5 月 23 日まで市民ホールにて展示、6 月 4 日から 6 月 28 日まで富士根北公民館にてパネル展示）
- 5 月 8 日 五反田遺跡埋蔵文化財確認調査実施
- 5 月 14 日 神祖遺跡埋蔵文化財確認調査実施
- 5 月 22 日 東田遺跡埋蔵文化財確認調査実施
- 5 月 29 日 上宿遺跡埋蔵文化財確認調査実施
- 6 月 12 日 貴船町遺跡埋蔵文化財確認調査実施
- 6 月 13 日 第 1 回史跡大鹿窪遺跡整備委員会開催
- 6 月 19 日 寺ノ後遺跡埋蔵文化財確認調査実施
- 6 月 20 日 中ノ土手遺跡埋蔵文化財確認調査実施
- 6 月 27 日 野中向原遺跡埋蔵文化財確認調査実施
- 7 月 3 日 寺ノ後遺跡埋蔵文化財確認調査実施
- 7 月 10 日 五反田遺跡埋蔵文化財確認調査実施
- 7 月 13 日 世界遺産センター共催展「富士山信仰の拠点となる湧水一湧玉池がはぐくむ豊かな生態系ー」（9 月 8 日まで）
- 7 月 22 日 郷土資料館企画展「「上井出地区」と「白糸地区」の歴史文化再発見」展開催（7 月 26 日まで）
- 7 月 22 日 西町遺跡埋蔵文化財確認調査実施
- 7 月 30 日 第 1 回史跡富士山整備委員会
- 8 月 5 日 第 1 回市史編さん委員会開催

- 8月6日 城山遺跡埋蔵文化財確認調査実施
8月9日 古文書講座「古文書を読んで、江戸時代の大宮町について学ぼう」開催
8月16日 「作ろう！勾玉！」教室開催（～17日）
8月20日 川坂遺跡埋蔵文化財確認調査実施
8月22日 月の輪上遺跡埋蔵文化財確認調査実施
8月26日 第1回富士宮市文化財保存活用地域計画協議会
9月5日 第1回文化財保護審議会開催
9月6日 西町遺跡埋蔵文化財確認調査実施
9月19日 郷土資料館移動展示「市指定文化財 平等寺三門」展（9月25日まで）
9月10日 LINE 文化財アンケート実施（9月30日まで）
9月20日 東田遺跡埋蔵文化財確認調査実施
9月20日 郷土資料館収蔵品くん蒸実施（9月22日まで）
10月11日 貴船町遺跡埋蔵文化財確認調査実施
10月15日 郷土資料館移動展示「北山用水（本門寺堀）世界かんがい施設遺産登録1周年記念展示」開催（10月17日まで小規模展示、10月29日～11月7日まで本展示）
10月21日 村山浅間神社遺跡史跡整備（石段改修工事）に伴う確認調査実施（11月15日まで）
11月1日 パネル展「富士山信仰の拠点となる湧水一湧玉池が育む豊かな生態系ー」（11月7日まで）
11月2日 市史講演会「標高差日本一の町！ 富士宮市の植物たち」開催
11月1日 月の輪上遺跡埋蔵文化財確認調査実施
11月18日 村山浅間神社社務所完成記念展（5月25日まで）
11月21日 五反田遺跡埋蔵文化財確認調査実施
12月11日 ジンゲン沢遺跡埋蔵文化財確認調査実施
12月16日 第1回名勝及び天然記念物白糸ノ滝整備委員会開催
12月20日 峯石遺跡埋蔵文化財確認調査実施
12月23日 大宮城跡埋蔵文化財確認調査実施

〈令和7年〉

- 1月9日 大室遺跡埋蔵文化財確認調査実施
1月14日 湧玉池の環境保全についての意見交換会開催
1月16日 第2回富士宮市文化財保存活用地域計画協議会
1月25日 文化財保存活用地域計画意見交換会及び文化財活用講演会
1月26日 文化財防火デー
1月27日 第2回富士宮市文化財保存活用地域計画協議会
2月6日 第2回文化財保護審議会開催
2月10日 郷土資料館移動展示「市指定文化財 平等寺三門」展（2月13日まで）
3月4日 箕輪A遺跡埋蔵文化財確認調査実施
3月7日 第2回史跡大鹿窪遺跡整備委員会開催

- 3月8日 市史講演会「1954(昭和29)年富士宮の熱い夏—近江絹糸人権争議と富士宮市民—」開催
- 3月10日 第2回市史編さん委員会開催
- 3月18日 丸ヶ谷戸遺跡埋蔵文化財確認調査実施
- 3月22日 第2回歩く博物館探索会「大宮東地区 平等寺を中心に（歩く博物館 H 東コース）」実施
- 3月25日 第2回史跡富士山整備委員会
- 3月30日 「市の歴史 大型パネル展」開催（4月4日まで）
- 3月30日 「郷土資料館新収蔵品展 一描かれた富士の巻狩—」開催（4月1日まで）
- 3月31日 史跡公園「史跡大鹿窪遺跡」オープン

II 文化財保存・管理事業

1 文化財保護審議会

(1) 文化財保護審議会の開催

第1回 開催日：令和6年9月5日（木）

内 容：「文化財保存活用地域計画進捗」 「（仮称）郷土史博物館の進捗」

第2回 開催日：令和7年2月6日（木）

内 容：「大鹿窪遺跡の整備」「資料購入」「しづおか遺産認定」「狩宿の下馬ザクラの樹勢回復事業の進捗」「（仮称）郷土史博物館の進捗」「文化財保存活用地域計画進捗」

2 指定文化財整備事業

(1) 史跡「富士山」整備事業

史跡「富士山」（平成23年2月7日指定）について、史跡富士山整備委員会の指導を受けながら、史跡整備事業を実施した。また、便益施設及び史跡内の管理（草刈り等）については地元の地域団体等に委託して実施した。人穴富士講遺跡において洞穴入口及び案内所に、村山浅間神社において大日堂に防犯カメラを設置した。

ア 史跡富士山整備委員会の開催

第1回 開催日：令和6年7月30日（火）

内 容：令和5年度整備事業の説明（富士山本宮浅間大社の神田川沿いの整備について、村山浅間神社の発掘調査・龍頭ヶ池調査・石段修理（下段）について）。

令和6年度の整備事業の説明（富士山本宮浅間大社参道の整備について（測量調査・今後の整備等）、村山浅間神社石段修理（上段）・手すりについて、世界遺産のまちづくり整備基本構想の改定について）。

第2回 開催日：令和7年3月25日（火）

内 容：委員長、副委員長の選出

令和6年度の整備事業の説明（村山浅間神社の石段修理・危険木伐採、富士山本宮浅間大社の参道測量について）。

令和7年度の整備事業の説明（富士山本宮浅間大社の参道整備・今後整備について、村山浅間神社基本設計・手すり設置、人穴富士講遺跡の溶岩洞穴「人穴」測量等調査について）。

(2) 名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」整備事業

「名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」整備基本計画」（平成 24 年度富士宮市策定、令和 4 年度改定）に基づき、音止めの滝東側において指定当時の富士山への眺望と景観保全のために木竹の伐採を行い、さらに本来の植生の再生と眺望を阻害しない樹高を両立する樹種を選定し植栽を行った。来年以降も植栽を続けていく。

また、白糸の滝右岸からの眺望改善のための調査を行った。

便益施設及び指定地内の管理（草刈り等）については、地元の業者に委託し実施した。

ア 名勝及び天然記念物白糸ノ滝整備委員会の開催

第1回 開催日：令和 6 年 12 月 16 日（月）

内 容：令和 5 年度に完成した音止めの滝展望場と自然環境整備工事について報告。令和 7 年度に行う「白糸ノ滝」左岸尾根部崖面保護工事と音止めの滝西側の植栽工事、音止めの滝東側の植樹について説明・検討。

(3) 史跡「大鹿窪遺跡」整備事業

「大鹿窪遺跡」（平成 20 年 3 月 28 日指定）について、令和 3 年度に作成した実施設計に基づき、3か年計画でしてきた整備工事の最終年度事業を行い、令和 7 年 3 月 31 日にオーブンした。また、適正な保存・公開・活用を検討するため、史跡大鹿窪遺跡整備委員会を開催した。その他、史跡管理のため、指定地内（約 3,600 m²）の草刈を地元区に委託して実施した。

ア 史跡大鹿窪遺跡整備委員会の開催

第1回 開催日：令和 6 年 6 月 13 日（木）

内 容：令和 5 年度整備工事の完了報告、令和 6 年度の工事内容検討。

第2回 開催日：令和 7 年 3 月 7 日（金）

内 容：令和 6 年度整備工事の実施状況の報告、整備内容の現地確認。

3 指定文化財保存管理事業

(1) 富士宮市文化財保護補助金の交付

「富士宮市文化財保護補助金交付要綱」に基づき、以下の通り市内指定文化財の管理・保存・活用事業に対して補助金の交付を行った。

ア 国指定重要文化財「富士山本宮浅間神社本殿」指定文化財管理事業

補助事業者：宗教法人 富士山本宮浅間大社

事 業 内 容：国指定重要文化財「富士山本宮浅間神社本殿」の自動火災報知設備・消火設備・避雷針の保守点検等の文化財管理事業を実施した。

イ 県指定有形文化財「富士山本宮浅間大社社殿」指定文化財管理事業
補助事業者：宗教法人 富士山本宮浅間大社
事業内容：県指定有形文化財「富士山本宮浅間大社社殿」の自動火災報知設備・消火設備・避雷針の保守点検等の文化財管理事業を実施した。

ウ 市指定有形文化財「大日如来坐像」等保存活用事業
補助事業者：宗教法人 村山浅間神社
事業内容：村山浅間神社大日堂所在の市指定文化財「大日如来坐像（胎蔵界）」他5点の市指定文化財について、防カビ・防虫のためのくん蒸を行った。

（2） 指定文化財保護対策事業

県指定天然記念物「西山本門寺のヒイラギ」の樹勢保持のため、令和7年3月に施肥・消毒等を実施した。

また特別天然記念物「狩宿の下馬ザクラ」について、文化庁・樹木医の指導のもと、文化財の管理団体として「土壤柔軟化及び改良」「幹根元周辺発根促進」「木製支柱当たり調整・撤去、およびロープ支柱設置」「根元土壤通気性改善」「枯れ枝剪定」を行った。

また、市指定文化財「大室古墳」保護のため、古墳上の樹木を伐採した。



写真1 狩宿の下馬ザクラ 土壤軟化作業

（3） 文化財防火デー

文化財防火デーは、国民全体の重要な宝である文化財を火災や震災などの災害から守るために昭和30年に定められたもので、毎年1月26日を中心に全国で文化財防火運動が実施されている。

市内では、富士山本宮浅間大社と大石寺で防火訓練が実施された。また、消防本部による消防設備の点検や、東京電力パワーグリッド（株）富士支社の協力による指定文化財建物の漏電検査を行った。



写真2 防災訓練（大石寺）



写真3 防災訓練（富士山本宮浅間大社）

(4) 湧玉池保全検討

特別天然記念物「湧玉池」は、現在定期的な清掃により景観を保っているが、昨年度から今後の「景観の現状維持」のため、専門家や文化庁文化財調査官を招いて協議を実施している。令和6年度は、池の現況把握のため委託にて底生生物調査を実施するとともに、今後の湧玉池の在り方について周辺で活動する団体の代表等と意見交換会を実施した。

ア 特別天然記念物「湧玉池」底生生物分析委託

特別天然記念物湧玉池の現状を把握し、湧玉池の保全対策を検討するため、いであ株式会社静岡営業所に委託し、底生生物の調査および分析を実施した。現地で4回調査が行われ、合計で147種の底生生物が確認された。

本調査により、湧玉池からは、市街地ではみられない渓流性の生物や、今では減少してしまった自然豊かな池や沼に生息する生物が数多く確認された。これは、浅間大社や富士宮市、地域住民が古来より湧玉池を慈しみ大切に守ってきた証左と考えられる。一方、外来種も数多く確認された。それら外来種が在来種や湧玉池の環境にどのような影響を与えているのかは現時点で不明であるため、今後も定期的に調査を実施し、湧玉池環境の健全性についてモニタリングしていくことが重要である。

イ 湧玉池の環境保全についての意見交換会

市民目線での今後の湧玉池の在り方について意見を聴取するため、周辺で活動する団体の代表等（下記「世界遺産富士山のまち」推進会議委員・養鱒関係者）と意見交換会を実施した。

日 時：令和7年1月14日（火）午後1時～2時

場 所：市役所710会議室

参加者

小西 英麿	富士山本宮浅間大社
勝呂 早希	NPO 法人まちづくりトップランナーふじのみや本舗
石田 寛二	公益社団法人富士宮市観光協会
渡邊 朱美	富士宮市地区連合会大宮中地区区長会
高柳 洋子	富士宮市観光ガイドボランティアの会
森垣 大助	富士養鱒漁業協同組合
惟村 智子	〃

ウ 世界遺産センター共催展「富士山信仰の拠点となる湧水一湧玉池がはぐくむ豊かな生態系ー」

期 間：令和6年7月13日～令和6年9月8日

場 所：静岡県富士山世界遺産センター 2階企画展示室

開催形態：主催 静岡県富士山世界遺産センター

共催 富士宮市・ふじのくに地球環境史ミュージアム

協力 いであ株式会社環境創造研究所

内 容：特別天然記念物「湧玉池」について、静岡県富士山世界遺産センターが独自に進めている湧玉池湧水の定点調査から湧玉池湧水の特徴を解説した。また、富士山湧水とともに生かされてきた富士宮の歴史・生活を振り返るとともに、湧玉池の豊富な湧水によってはぐくまれてきた動植物の恵みについて自然標本とともに紹介した。

湧玉池の歴史の展示は市の学芸員が担当し、湧玉池の生態系の展示は、前年度から湧玉池の景観の現状維持のために水生生物調査をしている静岡県地球環境史ミュージアム・いであ株式会社が担当した。



写真4 展示ポスター

4 (仮称) 富士宮市立郷土史博物館事業

(1) 文化財保存管理調査

浸水想定区域にある埋蔵文化財センターの収蔵物を移設するための基礎調査として、現状の把握と、移設する場合に必要となる面積や収蔵環境について報告をまとめた。

(2) 他館視察

ア 富士山かぐや姫ミュージアム視察

博物館整備に向けて、参考事例として富士山かぐや姫ミュージアムを視察した。

実施日：令和6年5月9日（木）午後1時30分～

内 容：テーマ展示の見学、本館・収蔵スペース等の視察、館の規模・ボランティアの運用・入館者の傾向・年間の運営費・その他館の運営に関するこの聴取等

(3) (仮称) 富士宮市立郷土史博物館構想周知事業

ア 古文書を読んで、北山用水について学ぼう

実施日：令和6年4月26日（金）

場 所：市役所 610 会議室

内 容：古文書読解チャレンジ・解説

学芸員による解説「北山村と「旧北山村役場文書」の概要」「江戸時代の北山用水について」

(仮称) 郷土史博物館構想についての説明

対 象：市内在住・在勤の人

参加者：参加者8人

イ 古文書を読んで、江戸時代の大宮町についてについて学ぼう

実施日：令和6年8月9日（金）

場 所：市役所410会議室

内 容：古文書読解チャレンジ・解説

（仮称）郷土史博物館構想についての説明

対 象：市内在住・在勤の人

講 師：渡井 正二（元富士宮市文化財保護審議会委員）

参加者：参加者23人

5 富士宮市文化財保存活用地域計画作成事業

（1）LINEアンケート「富士宮市公式ラインのアンケートに答えてプレゼントをもらおう」

ア 「文化財アンケート」

実施期間：令和6年9月10日（火）～30日（月）

回 答 数：1,263人

（2）市民との意見交換

ア 文化財保存活用計画講演会・意見交換会

実施日：令和7年1月25日（土）

参加者：24人

内 容：文化財保存活用地域計画協議会会長が「文化財の活用」について講演した。また、文化財の活用について参加者が意見交換を行った。

（3）文化財保存活用地域計画協議会の開催

ア 第1回 開催日：令和6年8月26日（月）

内 容：市政モニターアンケートの結果報告、計画内容について意見交換

イ 第2回 開催日：令和7年1月27日（月）

内 容：LINEアンケートの結果報告、計画案の内容について意見交換

III 埋蔵文化財事業

1 整理作業、報告書刊行

開発行為に伴い行った埋蔵文化財の発掘調査の調査報告書刊行を実施した。

(1) 『滝戸遺跡III』（発掘調査報告書刊行）

前年度に引き続き、富士宮市立第三中学校擁壁工事に伴い令和3年度に実施した発掘調査の文化財調査報告書を令和7年3月に刊行した。

ア 調査の概要

所在地：富士宮市野中 658 ほか

期 間：令和3年6月16日～12月10日

面 積：発掘面積約 125 m²

目 的：擁壁工事に伴う発掘調査

イ 遺跡の概要

滝戸遺跡は、富士宮市立第三中学校の校庭を中心に潤井川まで広がる大遺跡で、縄文・弥生・古墳時代にまたがる複合遺跡である。これまでの調査によって、縄文時代の堅穴住居跡や配石遺構、弥生時代から古墳時代にかけての住居跡や方形周溝墓などが発見され、各時代の土器・石器などの遺物も多数発見された。

ウ 報告書の概要

縄文時代中期から後期の遺構面（縄文1面）が検出され、集石・配石遺構5基及び埋甕6基が発見された。包含層からは、井戸尻式から堀之内式までの土器及び石器が多量に出土した。主体を占める型式は曾利III式～曾利V式までとなっている。

縄文1面を切る形で、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての溝状遺構が構築されていることが確認された。3基検出され、溝の中から弥生時代末期～古墳時代初頭にあたる土器片が多く出土した。また、残存率の高い二重口縁壺が1点出土している。

縄文1面の包含層が約1m続き、その下位から褐色土層が検出された。従来の調査では当該土層からは遺物が出土していなかったが、一部を深堀したところ、黒曜石が大量に出土した。そのため褐色土層を縄文2面として精査をおこなったところ、調査区中央部を中心として、縄文時代早期の撫糸文土器、縄文時代草創期の微隆起線文土器、隆線文土器及び有舌尖頭器等の遺物が出土した。



写真5 『滝戸遺跡III』



図1 対象地

2 開発行為に伴う埋蔵文化財の試掘・確認調査

令和6年度に行った調査は表1のとおりであり、遺構は上宿遺跡(8)、月の輪上遺跡(22)、峯石遺跡(25)で検出された。検出された遺構の概要は以下のとおりである。また、連雀町遺跡(1)、内久子遺跡(2)、東田遺跡(7)、野中向原遺跡(12)、西町遺跡(15)、箕輪A遺跡(28)では遺物のみであるが縄文時代・弥生～古墳時代・奈良・平安時代の土器・石器が出土した。

表1 開発行為に伴う埋蔵文化財の試掘・確認調査一覧表

番号	名称	所在地	調査期間	調査面積	時代	主な遺構	主な遺物
1	連雀町遺跡	東町	R6.3.21～4.17	2 m ²	弥生～古墳	なし	土器 (弥生～古墳)
2	内久子遺跡	黒田	R6.4.8	16.0 m ²	弥生～古墳	なし	石器(縄文)
3	神祖遺跡	小泉	R6.4.11	6.1 m ²	縄文、古墳	なし	なし
4	牛ヶ沢遺跡	大中里	R6.4.15	8 m ²	古墳	なし	なし
5	五反田遺跡	黒田	R6.5.8	6 m ²	縄文、古墳	なし	なし
6	神祖遺跡	小泉	R6.5.14	6 m ²	縄文、古墳	なし	なし
7	東田遺跡	貴船町	R6.5.22	3 m ²	弥生～古墳、奈良・平安	なし	土器(古墳～奈良・平安)
8	上宿遺跡	小泉	R6.5.29	12 m ²	縄文、古墳	土坑(弥生～古墳)	土器(弥生～古墳)
9	貴船町遺跡	貴船町	R6.6.12	3 m ²	弥生～古墳、奈良・平安	なし	なし
10	寺ノ後遺跡	小泉	R6.6.19	6 m ²	縄文	なし	なし
11	中ノ土手遺跡	小泉	R6.6.20	3 m ²	縄文、古墳	なし	なし
12	野中向原遺跡	野中	R6.6.27	15 m ²	縄文、弥生～古墳	なし	土器 (弥生～古墳)
13	寺ノ後遺跡	小泉	R6.7.3	3 m ²	縄文	なし	なし
14	五反田遺跡	黒田	R6.7.10	6 m ²	縄文、古墳	なし	なし
15	西町遺跡	西町	R6.7.22	1.5 m ²	弥生～古墳	なし	土器 (弥生～古)

16	城山遺跡	元城町	R6. 8. 6	1. 5 m ²	古墳、中世	なし	なし
17	川坂遺跡	小泉	R6. 8. 20	3. 6 m ²	奈良～平安	なし	なし
18	月の輪上 遺跡	星山	R6. 8. 22	6 m ²	縄文、弥生～古 墳、中世、近世	なし	なし
19	西町遺跡	泉町	R6. 9. 6	3 m ²	弥生～古墳	なし	なし
20	東田遺跡	中里東町	R6. 9. 20	3. 4 m ²	弥生～古墳、奈良 平安	なし	なし
21	貴船町遺跡	貴船町	R6. 10. 11	3 m ²	弥生～古墳、奈良	なし	なし
22	月の輪上 遺跡	星山	R6. 11. 1	12 m ²	縄文、弥生～古 墳、中世、近世	土坑（弥生 ～古墳）	土器 (弥生～古墳)
23	五反田遺跡	黒田	R6. 11. 21	9 m ²	縄文、古墳	なし	なし
24	ジンゲン沢 遺跡	小泉	R5. 12. 11	6 m ²	縄文、古墳	なし	なし
25	峯石遺跡	大岩	R6. 12. 20	4. 6 m ²	縄文、古墳、奈良	ピット（縄 文）	なし
26	大宮城跡	元城町	R6. 12. 23	3 m ²	古墳、奈良・平 安、中世、近世	なし	なし
27	大室遺跡	小泉	R7. 1. 9	3 m ²	縄文、古墳	なし	なし
28	箕輪A遺跡	大岩	R7. 3. 4	3 m ²	縄文、古墳	なし	土器 (縄文)
29	丸ヶ谷戸 遺跡	大岩	R7. 3. 18	6 m ²	縄文、弥生～古 墳、中世	なし	なし

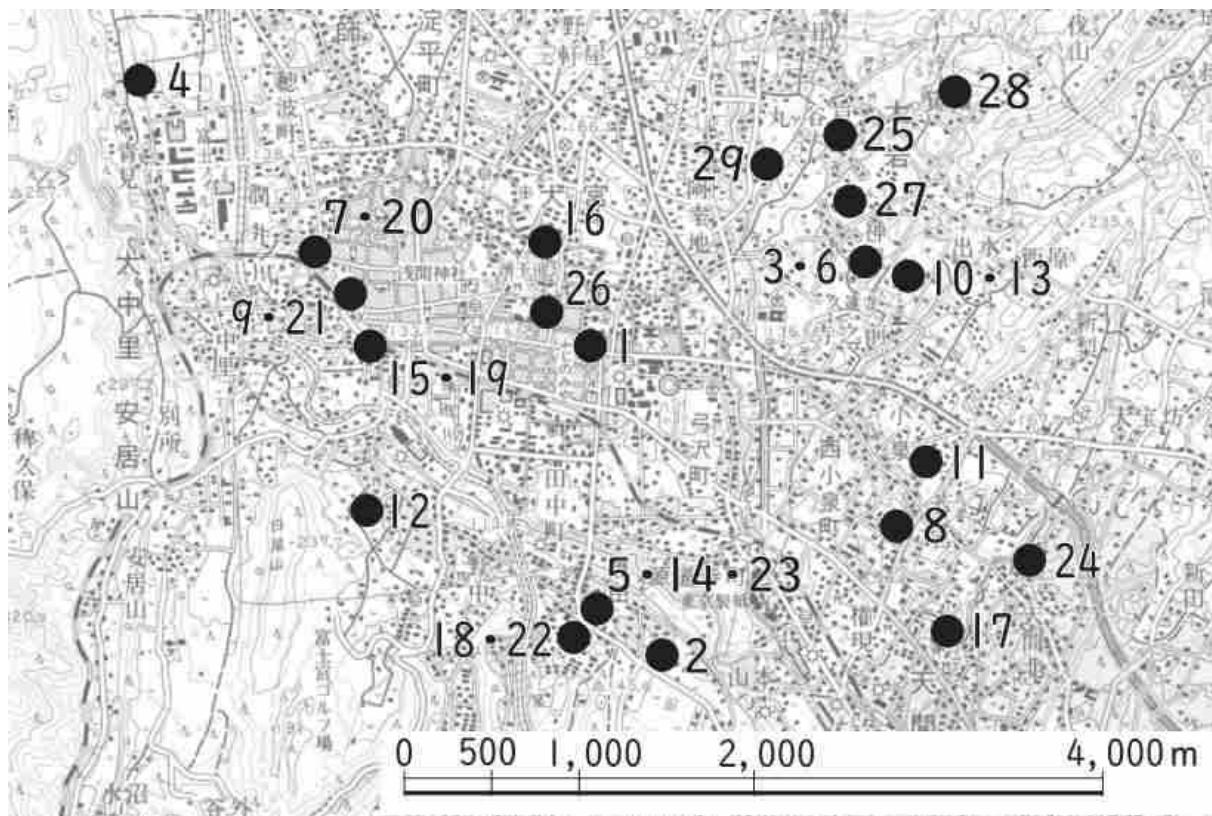


図2 確認調査実施箇所位置図 (S=1/60,000)

(1) 上宿遺跡 (表1—8)

ア 遺跡の概要

富士宮市小泉の久遠寺と慈眼寺沢に挟まれた富士山からせり出した台地の末端に位置している。縄文土器の散布は希薄であるが、弥生～古墳時代の土器が濃密に散布するとされる、縄文時代早期・中期～後期、弥生から古墳時代初期の遺跡である。



写真6 Tr 1 完掘状況

イ 調査の概要

宅地造成事業に伴う事前の確認調査で、トレーナー4本を設定して調査を行った。

ウ 主な遺構・遺物

遺構：土坑（弥生～古墳時代）
遺物：土器（弥生～古墳時代）



写真7 出土遺物

エ 調査の成果

TR 1 で、地表面から 20 cm までは造成土となっていたが、造成土の直下に縄文時代晚期から弥生時代初期に堆積した層が検出され、弥生～古墳時代の遺物を伴う土坑が確認された。

TR 2～4 は、縄文時代草創期以前に及ぶ層まで掘削したが、そのほとんどは造成土であった。

(2) 月の輪上遺跡（表 1—22）

ア 遺跡の概要

黒田小学校及びその南側の小高い丘の西裾に広がる遺跡で、縄文時代、弥生時代～古墳時代までの遺跡である。

昭和 50～60 年代に発掘調査が行われ、弥生後期の大規模な環濠集落が検出された。



写真 8 TR 1 断面 (掘り込み)

イ 調査の概要

黒田小学校運動場鉄棒設置工事に伴う事前の確認調査で、トレンチ 3 本を設定して調査を行った。

ウ 主な遺構・遺物

遺構：土坑

遺物：土器（弥生時代～古墳時代）



写真 9 出土遺物

エ 調査の成果

地表面から 60 cm 程度まで、運動場整備に伴う造成土が堆積していた。

TR 1 からは土坑の掘り込みが確認され、TR 2 からは TR 1 の掘り込みと同時期の層から弥生時代後半～古墳時代前期と思われる土器が出土し、TR 3 からは TR 1 の掘り込みと同時期の層が確認された。

今回の調査では、TR 1 で遺構が、TR 2 で遺物が確認されている。TR 3 からは明確な遺構・遺物の出土はなかったが、過去に周辺で行われた調査から、周辺には弥生時代～古墳時代の遺跡が広がっていると思われる。

(3) 峯石遺跡（表 1—25）

ア 遺跡の概要

富士宮市大岩の大沢川中流域の西岸に広がる遺跡である。平成 5 年と平成 23 年に実施した発掘調査では、縄文時代の竪穴住居跡や古墳時代、奈良時代の建物跡が検出されている。また、土器及び石器も出土している。

イ 調査の概要

個人住宅建設に伴う事前の確認調査で、トレーナー 1 本を設定して調査を行った。



写真 10 ピット

ウ 主な遺構・遺物

遺構：ピット（縄文時代）

エ 調査の成果

地表面から 160 cm で、縄文時代草創期以前に堆積したと考えられる層からピットが半円状に確認された。ピットは縄文時代中期～後期に相当すると考えられる層から柱状に掘り込まれていた。

遺物の出土は確認されなかったが、過去に隣接地で行われた発掘調査結果から、対象地周辺に遺跡が広がっていると考えられる

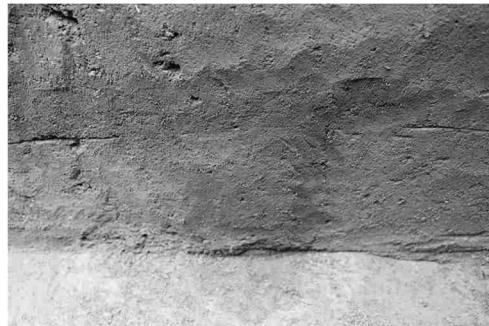


写真 11 ピット断面

3 埋蔵文化財活用事業

（1）体験教室

埋蔵文化財活用事業として、以下の教室を行った。

名称	内容	実施日	参加者数
「作ろう！勾玉」教室	勾玉作り	令和 6 年 8 月 16 日 令和 6 年 8 月 17 日	午前 10 人、午後 9 人 午前 6 人、午後 11 人

（2）展示

埋蔵文化財に関して、以下の展示を行った。

展示名	内 容	実施時期	会場
共催展示 「楽座でらくらく！スルガ古墳紀行」	県東部の古墳や遺跡を紹介。富士宮市は、丸ヶ谷戸遺跡から出土した前方後方形墳丘墓をポスターで紹介し、出土した土器を展示（富士市教育委員会・沼津市教育委員会・静岡県埋蔵文化財センター共催。三島市教育委員会・伊豆の国市教育委員会協力）	令和 6 年 8 月 9 日～ 9 月 8 日	道の駅 富士川楽座
「埋蔵文化財探訪 「スルガ古墳時代の幕開け」」展	「楽座でらくらく！スルガ古墳紀行」で展示した遺跡の他、埋蔵文化財に関する仕事についてのポスターを展示	令和 6 年 8 月 16 日～ 9 月 17 日	市立 中央図書館

4 富士宮市埋蔵文化財センター

発掘調査で出土した遺物を収蔵保管し、整理作業を行っている。また、展示室では市内の遺跡・史跡の展示をしている。

(1) 施設概要

所在 地：富士宮市長貫 747-1

電話番号：0544-65-5151

FAX番号：0544-65-2933

駐 車 場：50 台

開 館 日：平日（祝日・年末年始休館、土・日曜日は団体のみ（要事前連絡））

開館時間：9:00～17:00（入館 16:30 まで）

見 学 料：無料

展示内容：旧石器時代から中世・近世の各時代出土資料、市内主要遺跡の紹介、
史跡富士山関連遺跡発掘調査出土資料



写真 12 展示室

IV 郷土資料館事業

1 展示

(1) 企画展

ア 速報展示 山岡鉄舟の書

期間：令和6年5月20日～令和6年5月23日

場所：富士宮市役所1階 市民ホール

内容：令和6年4月に寄贈された資料（山岡鉄舟の書）を時代背景の解説とともに速報展示了。また、展示パネルの一部を6月4日から6月28日まで富士根北公民館にて展示了。

イ 移動展示「富士宮の歴史文化再発見—「上井出地区」「白糸地区」—」展

期間：令和6年7月22日～令和6年7月26日

場所：富士宮市役所1階 市民ホール

内容：「文化財保存活用地域計画」の作成の一環として実施した、市内各地域の歴史・文化の聞き取りの成果を元に、「上井出地区」と「白糸地区」の歴史・文化について紹介した。また、展示パネルの一部を用いて、「上井出地区」と「白糸地区」にてサテライト展示を行った。

関連事業：①8月5日～8月9日 サテライト展示 上井出出張所（上井出639）

②8月19日～8月23日 サテライト展示 白糸出張所（原1113）

③9月2日～9月6日 サテライト展示 富士開拓農業協同組合（上井出2223）

ウ 「市指定文化財 平等寺三門」展

期間：①令和6年9月19日～令和6年9月25日

②令和7年2月10日～令和7年2月13日

場所：①平等寺（東町4-24）、②富士宮市役所1階 市民ホール

内容：浄土宗平等寺の三門が昭和60年に市指定文化財となってから今年で39年を迎える。本展示を通じて、市民の文化財の保存活用に対する理解を深めることを目的として、三門の意匠を中心に、三門の概要と指定内容、三門に関する歴史について、写真・パネルで紹介した。

また、令和7年3月下旬に実施した歩く博物館探索会「大宮東地区をめぐるH東コース」の紹介を行った。

関連事業：9月22日 展示解説（文化課学芸員）

エ 移動展示「北山用水（本門寺堀）世界かんがい施設遺産登録1周年記念展示

期間：①令和6年10月15日～10月17日（小規模展示）

②令和6年10月29日～11月7日（本展示）

場所：①富士宮市役所1階 市民ホール（小規模展示）

②北山会館 1 階 小会議室（北山 1584-1）（本展示）

内容：北山用水（本門寺堀）が世界かんがい施設遺産に登録され、まもなく 1 周年を迎えることを記念し、北山用水（本門寺堀）の歴史、魅力と価値について解説しました。なお、展示パネルの一部を使用し、本展示に先駆けて市民ホールにて小規模展示を実施した。

関連事業：10 月 29 日 歩く博物館探索会「徳川家康公ゆかりの本門寺堀 世界かんがい施設遺産「北山用水」」

※雨天中止のため屋内展示の臨時解説を同日に実施。

講師：文化課学芸員

才 パネル展「富士山信仰の拠点となる湧水—湧玉池が育む豊かな生態系—」

期間：令和 6 年 11 月 1 日～令和 6 年 11 月 7 日

場所：富士宮市役所 1 階 市民ホール

内容：7 月 13 日から 9 月 8 日まで富士山世界遺産センターで開催した同名の企画展について、展示物をパネルに変更し、展示を行った。

関連事業：11 月 1 日 関連講座「特別天然記念物「湧玉池」の歴史」

講師：文化課学芸員

カ 村山浅間神社社務所完成記念展

期間：令和 6 年 11 月 18 日～令和 7 年 5 月 25 日

場所：村山浅間神社社務所（村山 1151）

内容：村山浅間神社社務所の建て替え完了を記念して、県指定文化財「村山浅間神社関係資料」等を用いて、村山浅間神社の歴史について紹介した。

キ 郷土資料館新収蔵品展 一描かれた富士の巻狩—

期間：令和 7 年 3 月 30 日～令和 7 年 4 月 1 日

場所：富士宮市役所 1 階 市民ホール

内容：郷土資料館で令和 6 年度に収集した資料のうち、「富士の巻狩図屏風」など、富士の巻狩にかかる資料を展示した。

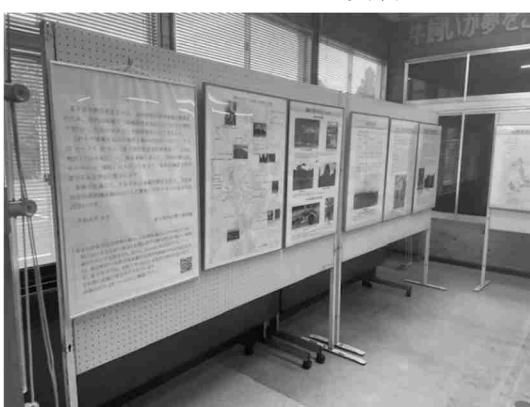


写真 13

「富士宮の歴史文化再発見—「上井出地区」「白糸地区」—」展（富士開拓農業協同組合）



写真 14 「市指定文化財 平等寺三門」展

(2) 移動展示パネル

ア 移動展示パネルの作成

富士宮市民文化会館のリニューアル工事に伴う休館により郷土資料館も休館となった。その間、富士宮の歴史や文化財等に関する知識の普及のため、市民ホールその他場所で出張展示や講座を行う。その際、富士宮の歴史や文化財等を通史的に理解することができる展示パネルを作成した。

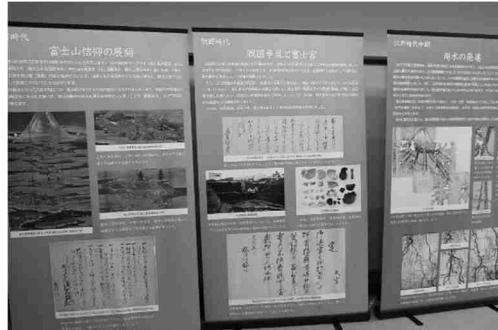


写真 15 移動展示パネル

イ 市の歴史 大型パネル展

期間：令和7年3月30日～令和7年4月4日

場所：富士宮市役所1階 市民ホール

内容：令和6年度に市が制作した、富士宮市の歴史の特徴がわかる移動展示パネルをお披露目した。

※3月30日～4月1日は、「郷土資料館新収蔵品展—描かれた富士の巻狩—」が実施されたため、本展示規模を縮小。

2 資料収集・保存管理

(1) 資料収集

表2 郷土資料収集品一覧

受入月	内容	収集方法
令和6年 4月	美術資料 2点	個人寄贈
4月	民俗資料 1点	個人寄贈
4月	写真資料 1点	個人寄贈
6月	写真資料 1式	現地採集
6月	民俗資料 1点	現地採集
6月	民俗資料 2点	個人寄贈
7月	民俗資料 1点	現地採集
7月	民俗資料 1点	現地採集
7月	民俗資料 1点	現地採集
8月	民俗資料 1点	現地採集
8月	民俗資料 1点	個人寄贈
9月	民俗資料 1点	個人寄贈
11月	美術資料4点、民俗資料13点	個人寄贈
11月	美術資料 8点	購入
12月	歴史資料 2点	個人寄贈
12月	写真資料 1点	個人寄贈
12月	歴史資料 1点	個人寄贈

令和7年 1月	民俗資料 1点	地縁団体寄贈
1月	歴史資料 6点	現地採集
1月	歴史資料 1点	現地採集
2月	民俗資料 1点	現地採集
2月	歴史資料 1式	個人寄贈
2月	民俗資料 1点	個人寄贈
3月	歴史資料 1点	個人寄贈
3月	歴史資料 1式	個人寄贈
3月	歴史資料 2点	現地採集
3月	歴史資料 1式	個人寄贈



写真 16 富士の巻狩図屏風

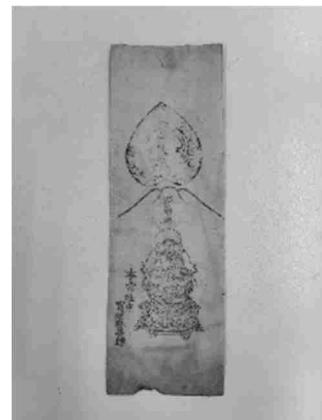


写真 17 岳藥師お札

(2) 保存管理

ア 資料館備品・収蔵品移転業務

日 時：令和6年5月27日(月)～6月4日(火)まで

場 所：富士宮市文化会館（富士宮市宮町14-2）：移転元

埋蔵文化財センター収蔵庫（富士宮市長貫747-1）：移転先

郷土資料館内房収蔵庫（富士宮市内房3909）：移転先

内 容：富士宮市文化会館の休館にともない館内に設置された郷土資料館の備品・収蔵品を市指定の場所へ移転した。（委託業者：株式会社サカイ引越センター）

イ 収蔵品くん蒸事業

日 時：令和6年9月20日(金)～9月22日(日)まで

場 所：被覆くん蒸（埋蔵文化財センター収蔵庫内）（富士宮市長貫747-1） 約 50 m³

埋蔵文化財センター収蔵庫 約 600 m³

埋蔵文化財センター別棟 約 550 m³

内 容：埋蔵文化財センター収蔵庫内で、被覆くん蒸法により、薬品名エキヒュームSによる殺虫・殺カビくん蒸を実施した。あわせて、埋蔵文化財センター収蔵庫・同別棟では、薬品名ブンガノンによる殺虫処理を実施した。（施工業者：関東港業株式会社）

V 歩く博物館事業

1 歩く博物館探索会

(1) 市主催探索会

ア 第2回

日時：令和7年3月22日(土)

場所：大宮東地区(歩く博物館 H 東コース)

市指定文化財「平等寺の三門」に関連した旧大宮町東地区を歩くコース。

講師：柿崎 沙織(文化課学芸員)

参加者：28人



写真18 「大頂寺」境内



写真19 「平等寺の三門」前

※第1回は雨天により中止

VI 市史編さん事業

1 概要

市民に親しみやすい市史となるよう、図や写真を多用した図説的な形式で、市制施行80周年を迎える令和4年度に第1巻となる『富士宮の歴史 自然環境編』を刊行した。

令和7年度から令和9年度にかけて、民俗編及び通史編I～IIIを順次刊行する予定である。

市史刊行スケジュール

令和4年度	自然環境編	刊行済み	令和8年度	通史編II（近世）
令和7年度	民俗編		令和9年度	通史編III（近現代）
令和7年度	通史編I（先史・古代・中世）			

2 市史編さん委員会

市史編さん委員会を2回開催し、活動報告、ファイル共有システムの導入、民俗編・通史編I刊行に向けての検討を行った。

（1）市史編さん委員会の開催

ア 第1回 開催日：令和6年8月5日（月）

内 容：「活動報告」「ファイル共有システムの導入および運用について」など

イ 第2回 開催日：令和7年3月10日（月）

内 容：「活動報告」「令和7年度刊行予定について」「印刷製本仕様書について」など

3 分野別の活動

継続して、民俗・考古・中世・近世・近現代の分野ごとに調査等の活動を実施した。市史編さん委員・執筆員による打合せや行事調査、資料調査等を実施した。

また、富士宮市史講演会を2回開催した。

（1）民俗

- ・執筆員6人、調査補助員12人
- ・打合せ：11回 進捗状況の確認、仮原稿の検討
- ・行事調査・聞き取り調査：55回 神社祭典、盆行事、小正月行事、民具調査等
- ・集中調査：1回 内房地区

- ・石造物悉皆調査：調査実施日 85 日

表3 令和6年度 石造物悉皆調査実績（主要なもの）

石祠	13基	灯籠	10基	馬頭観音	8基	旗立石	6基
記念碑	2基	手洗石	2基	花立	2基	山神	2基

※既に調査が実施されている道祖神については除外。

(2) 考古

- ・執筆員 3人、監修者 2人
- ・打合せ：5回 仮原稿の検討
- ・資料調査：7回 遺跡出土遺物の調査等

(3) 中世

- ・執筆員 7人
- ・打合せ：3回 仮原稿の検討
- ・資料調査：1回 古文書の調査

(4) 近世

- ・執筆員 6人
- ・資料調査：27回 古文書目録作成等



写真 20 古文書目録作成

(5) 近現代

- ・執筆員 6人
- ・資料調査：35回 古文書目録作成、公文書の調査、聞き取り調査等

(6) 市史講演会

ア 「標高差日本一の町！ 富士宮市の植物たち」

講師：増澤武弘（静岡大学名誉教授、富士宮市史執筆員）

開催日：令和6年11月2日（土）14:00～15:30

会場：駅前交流センターきらら

参加者：63人

イ 「1954(昭和29)年富士宮の熱い夏—近江絹糸 人権争議と富士宮市民—」

講師：橋本誠一（静岡大学名誉教授、富士宮市
史編さん委員会副委員長）

開催日：令和7年3月8日（土）14:00～15:30

会場：駅前交流センターきらら

参加者：60人



写真 21 市史講演会（橋本）

VII その他の事業

1 問合せ対応

富士宮市の歴史や民俗などに関する、市内外からの問合せに対応した。要請に応じ、講座等の説明・案内を行った。

2 小中学校総合学習への対応

市内小中学校の総合学習（富士山学習）の一環として、児童・生徒の訪問・質問に対応した。また、各学校を訪問し講話を行った。

3 講師派遣

（1）富士山まちづくり出前講座

富士山まちづくり出前講座は、市民の自主学習の支援や市政の広報のために設けられたもので、令和6年度も文化課職員が講師となり、小中学校や交流センターにおいて、「ふるさとの歴史を学ぶ」と題して講座を開催した。

表4 令和6年度富士山まちづくり出前講座実施一覧

場所	対象	実施日	内容
上井出小学校	生徒	令和6年6月27日	ふるさとの歴史を学ぶ
富士宮第一中学校	生徒	令和6年6月28日	ふるさとの歴史を学ぶ
富士宮第四中学校	生徒	令和6年7月10日	ふるさとの歴史を学ぶ
富士根南小学校	生徒	令和6年9月2日	ふるさとの歴史を学ぶ

資料 i 各委員会等委員名簿

(1) 富士宮市文化財保護審議会委員及び富士宮市立郷土資料館運営協議会委員

任 期 令和5年9月1日から令和7年8月31日まで

根拠法令等 富士宮市文化財保護条例第45条第2項

富士宮市立郷土資料館条例第6条第3項

	氏 名	分 野
会長	北垣 俊明	天然記念物(地質・鉱物)
副会長	堀部 正円	重要文化財管理(大石寺)
委員	芦澤 幹雄	地域史
委員	伊藤 昌光	古文書・富士山信仰
委員	甲田 吉孝	重要文化財管理(浅間大社)
委員	佐藤 政幸	天然記念物(植物)
委員	佐野 澄要	重要文化財管理(北山本門寺)
委員	建部 恭宣	建造物
委員	本間 裕史	重要文化財管理(西山本門寺)
委員	馬飼野行雄	考古
委員	松田香代子	民俗・無形民俗文化財
委員	渡井 一信	民俗・郷土史

(2) 史跡富士山整備委員会委員

任 期 令和4年9月1日から令和6年8月31日まで

令和6年9月1日から令和8年8月31日まで

	氏 名	役 職 等	分 野
委員長	田中 哲雄※ ¹	元東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授 姫路市日本城郭研究センター名誉館長	造園学 遺跡整備
副委員長 委員長※ ³	谷川 章雄	早稲田大学人間名誉教授	考古学
委 員	建部 恭宣※ ²	富士宮市文化財保護審議会委員 元富士山世界文化遺産静岡県学術委員会委員	建築学
委 員	時枝 務	立正大学文学部史学科教授	考古学

委 員 副委員長※3	中村 羊一郎	静岡市歴史博物館名誉館長 元富士山世界文化遺産静岡県学術委員会委員	民俗学
委 員	渡井 正二	富士宮市文化財保護審議会委員 元富士山世界文化遺産静岡県学術委員会委員	近世史 民俗学
委 員	新妻 淳子※3	静岡文化芸術大学デザイン学部デザイン学科准教授	建築学

※1、2 令和6年8月31日退任

※3 令和7年3月26日就任

(3) 名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」整備委員会委員

任 期 令和4年10月1日から令和6年9月30日まで

任 期 令和6年10月1日から令和8年9月30日まで

	氏 名	役 職 等	分 野
委員長	渡邊 定元	元東京大学教授 △森林環境研究所長	生態環境
副委員長	天野 光一	日本大学理工学部教授	景観工学
委 員	池邊 このみ	元千葉大学園芸学部教授 社会構想大学院先端教育研究所客員教授	景観論 環境計画
委 員	佐野 貴司	国立科学博物館地学研究部鉱物科学研究グループ長	地質学 岩石・鉱物 鉱床学
委 員	関 文夫	日本大学理工学部教授	土木工学
委 員	増澤 武弘	静岡大学客員教授	生態環境
委 員	渡井 正二	富士宮市文化財保護審議会委員 元富士宮市世界遺産関連学術調査指導員	近世史 民俗学

(4) 史跡大鹿窪遺跡整備委員会委員

任 期 令和4年6月8日から令和7年6月8日まで

	氏 名	役 職 等	分 野
委員長	北垣 俊明	富士宮市文化財保護審議会副会長 奇石博物館副館長	地質学

副委員長	小林 謙一	中央大学文学部教授	考古学
委 員	篠原 和大	静岡大学人文社会科学部教授	考古学
委 員	建部 恭宣	元富士山世界遺産静岡県学術委員会委員 富士宮市文化財保護審議会委員	建築学
委 員	齊藤 俊英	大鹿窪区区長	地域代表

(5) 富士宮市史編さん委員

任 期 令和6年2月14日から令和8年2月13日まで

根拠法令等 富士宮市専門委員設置規則第3条

	氏 名	役 職 等	分 野
委員長	谷川 章雄	早稲田大学名誉教授	考古学
副委員長	橋本 誠一	静岡大学名誉教授	近現代史
委 員	小山 真人	静岡大学名誉教授	自然環境
委 員	西田 かほる	静岡文化芸術大学文化政策学部教授	近世史
委 員	松田 香代子	愛知大学非常勤講師	民俗学
委 員	山田 邦明	愛知大学文学部教授	中世史

(6) 富士宮市文化財保存活用地域計画協議会委員

任 期 令和5年8月24日から令和7年8月23日まで

根拠法令等 富士宮市文化財保存活用地域計画協議会設置要綱

	氏 名	区 分
会 長	小笠原永隆	帝京大学 観光経営学科 教授 (仮称) 富士宮市郷土史博物館構想検討委員会委員長 (R3)
副会長	西田かほる	静岡文化芸術大学 文化政策学部 教授 富士宮市市史編さん委員会委員 (R2~)

委 員	石田 寛二	富士宮市觀光協會 副會長
委 員	井出 泰弘	富士宮市鄉土史同好會 代表
委 員	角入 一典	富士宮商工会議所 副會頭
委 員	菊池 吉修	靜岡縣文化財課文化財地域支援班 班長
委 員	小西 英麿	富士山本宮淺間大社 権宮司
委 員	斎藤 愛	公募市民
委 員	佐野 和也	富士宮市企畫部企畫戰略課課長
委 員	村松 悅雄	富士宮市区長会連合会 代表
委 員	高柳 洋子	富士宮市地域女性連絡会 代表
委 員	中山 實	富士宮市觀光ガイドボランティア代表
委 員	望月 千尋	公募市民
委 員	諸星 桜	富士宮市P T A連合会 代表 (仮称) 富士宮市鄉土史博物館構想検討委員會委員 (R3)

※令和7年3月31日現在（委員・役職名等）

※委員は五十音順

富士宮市内指定文化財等一覧

〈令和7年3月31日現在〉

国指定文化財（21件）

No.	種別	文化財の名称	所在地	所有者（管理者）	指定年月日
1	重要文化財・建造物	富士山本宮浅間神社本殿	宮町	富士山本宮浅間大社	明 40. 5. 27
2	〃	大石寺五重塔	上条	大石寺	昭 41. 6. 11
3	〃	絵画 紬本著色富士曼荼羅図	静岡市（寄託）	富士山本宮浅間大社	昭 52. 6. 11
4	〃	工芸品 太刀（銘南无薬師瑠璃光如来/備前國長船住景光）	宮町	富士山本宮浅間大社	明 45. 2. 8
5	〃	脇差（鎌奉富士本宮源式部丞信国/一期一腰忠永廿四年二月日）	東京都（寄託）	富士山本宮浅間大社	〃
6	〃	太刀（銘吉用）	上条	大石寺	大 12. 3. 28
7	〃	書跡典籍 法華経（常子内親王筆）	西山	西山本門寺	昭 24. 2. 18
8	〃	紺紙金字法華経（開結共）	西山	西山本門寺	〃
9	〃	貞觀政要卷第一（日蓮筆）	北山	北山本門寺	昭 27. 7. 19
10	〃	細字金字法華経（藍紙）	北山	北山本門寺	昭 29. 3. 20
11	〃	古文書 法華證明鈔（日蓮筆）	西山	西山本門寺	昭 27. 7. 19
12	〃	日蓮自筆遺文	上条	大石寺	昭 42. 6. 15
13	〃	日蓮遷化記録（日興筆）	西山	西山本門寺	平 5. 1. 20
14	特別名勝	富士山	二合目以上他	（富士宮市他）	昭 27. 11. 22
15	特別天然記念物	狩宿の下馬ザクラ	狩宿	個人（富士宮市）	昭 27. 3. 29
16	〃	湧玉池	宮町他	富士山本宮浅間大社	〃
17	史跡	千居遺跡	上条	大石寺	昭 50. 6. 26
18	〃	大鹿窪遺跡	大鹿窪	富士宮市	平 20. 3. 28
19	〃	富士山	八合目以上他	（富士宮市他）	平 23. 2. 7
20	名勝・天然記念物	白糸ノ滝	原・上井出	（富士宮市）	昭 11. 9. 3
21	天然記念物	万野風穴	山宮	（富士宮市）	大 11. 3. 8

県指定文化財（25件）

No.	種別	文化財の名称	所在地	所有者（管理者）	指定年月日
1	建造物	西山本門寺本堂厨子	西山	西山本門寺	昭 29. 1. 30
2	〃	富士山本宮浅間大社社殿	宮町	富士山本宮浅間大社	〃
3	〃	大石寺御影堂	上条	大石寺	昭 41. 3. 22
4	〃	大石寺三門	上条	大石寺	〃
5	絵画	富士浅間曼荼羅図	静岡市（寄託）	富士山本宮浅間大社	昭 56. 10. 23
6	工芸品	脇差（銘出羽大掾藤原国路）	大中里	個人	昭 37. 6. 15
7	〃	青磁蓮弁文大壺	宮町	富士山本宮浅間大社	昭 52. 3. 18
8	〃	青磁浮牡丹文香炉	宮町	富士山本宮浅間大社	〃
9	〃	人形手青磁大茶碗	宮町	富士山本宮浅間大社	〃
10	〃	鉄板札紅糸威五枚胴具足	宮町	富士山本宮浅間大社	〃
11	書跡典籍	万曆本一切経	上条	大石寺	昭 52. 3. 18
12	〃	重須本曾我物語	北山	北山本門寺	昭 53. 10. 20
13	歴史資料	村山浅間神社関係資料	長貫（寄託）	村山浅間神社	令 6. 1. 16
14	無形民俗文化財	富士宮囃子	宮町他	富士宮囃子保存会	平 7. 3. 20
15	天然記念物	村山浅間神社の大スギ	村山	村山浅間神社	昭 31. 5. 24
16	〃	西山本門寺の大ヒイラギ	西山	西山本門寺	〃
17	〃	北山本門寺のスギ	北山	北山本門寺	昭 32. 5. 13
18	〃	大晦日五輪のカヤ	内房	個人	昭 40. 3. 19
19	〃	村山浅間神社のイチョウ	村山	村山浅間神社	昭 43. 7. 2
20	〃	上条のサクラ	上条	個人	〃
21	〃	富士山芝川溶岩の柱状節理	羽鮒	個人	昭 59. 3. 23
22	〃	猪之頭のミツバツツジ	猪之頭	個人	昭 60. 11. 29
23	〃	大晦日のタブノキ	内房	個人	昭 62. 3. 20
24	〃	芝川のポットホール	下柚野	（富士宮市）	平 7. 3. 20
25	〃	精進川の大カシワ	精進川	個人	平 29. 3. 24

市指定文化財（41件）

No.	種別	文化財の名称	所在地	所有者（管理者）	指定年月日
1	建造物	平等寺の三門	東町	平等寺	昭60.3.11
2	〃	井出家高麗門及び長屋	狩宿	富士宮市	平7.3.16
3	〃	妙蓮寺5棟	下条	妙蓮寺	平23.5.24
4	〃	上稻子八幡宮の厨子	上稻子	八幡宮	平25.6.20
5	〃	龍興寺の厨子	内房	龍興寺	〃
6	〃	芭蕉天神宮本殿	内房	芭蕉天神宮	〃
7	絵画	天象の図	長貫（寄託）	村山浅間神社	昭55.1.11
8	〃	太郎坊権現の図	長貫（寄託）	村山浅間神社	〃
9	〃	阿字曼陀羅	長貫（寄託）	村山浅間神社	〃
10	〃	伝末代上人画像	長貫（寄託）	村山浅間神社	〃
11	彫刻	大日如来坐像（胎蔵界）	村山	村山浅間神社	昭57.8.23
12	〃	大日如来坐像（金剛界）	村山	村山浅間神社	〃
13	〃	大日如来坐像（胎蔵界）	村山	村山浅間神社	〃
14	〃	役行者倚像	村山	村山浅間神社	〃
15	〃	不動尊像	村山	村山浅間神社	〃
16	〃	隨身像	宮町	富士山本宮浅間大社	平5.5.25
17	工芸品	伝源義助作大薙刀	宮町	富士山本宮浅間大社	昭40.5.10
18	〃	弥陀觀音勢至の軸（阿弥陀三尊雲越之来迎図）	上柚野	延命寺	平24.5.24
19	書跡典籍	後陽成天皇宸翰	宮町	富士山本宮浅間大社	昭40.5.10
20	〃	外国语（英・蘭）辞書類一括	中央町	個人	昭63.4.15
21	〃	三島ヶ嶽經塚出土經巻	宮町	富士山本宮浅間大社	令1.7.18
22	古文書	袖日記	大宮町	個人	昭60.3.11
23	〃	角田桜岳日記	長貫	富士宮市	令1.7.18
24	考古資料	三連甕形土器	黒田	個人	昭55.1.11
25	〃	安養寺の土偶	杉田	安養寺	昭57.8.23
26	〃	駿州富士郡二股村石經塚	栗倉	個人	昭63.4.15
27	〃	銅造虚空藏菩薩像懸仏	宮町	富士山本宮浅間大社	平29.5.18
38	無形民俗文化財	火伏念仏	内野	火伏念仏保存会	平11.1.26
29	〃	富士山本宮浅間大社流鏑馬	宮町	富士山本宮浅間大社流鏑馬保存会	平18.9.8
30	史跡	大室古墳	小泉	(上小泉八幡宮)	昭60.3.11
31	〃	中野梅市建立の句碑	黒田	本光寺	〃
32	〃	虚空藏社古墳	西小泉町	個人	平5.5.25
33	天然記念物	大宮繩状溶岩	元城町	富士宮市	昭44.4.1
34	〃	フジキクザクラ	上条	大石寺	昭57.8.23
35	〃	中央町のカヤ（カヤの木）	中央町	個人	〃
36	〃	猫沢のかシワ	猫沢	個人	平26.4.30
37	〃	西山本門寺のシダレマキ	西山	西山本門寺	〃
38	〃	寛妙寺のイヌマキ	内房	(橋上町内会)	〃
39	〃	平野のエドヒガンザクラ	羽鮒	平野町内会	平29.5.18
40	〃	田貫湖のハコネグミ	佐折	富士宮市白糸財産区	令3.6.16
41	〃	田貫湖のアシタカツツジ群落	佐折・猪之頭	富士宮市白糸財産区 富士宮市猪之頭財産区	令3.6.16

国登録有形文化財（1件）

No.	種別	文化財の名称	所在地	所有者（管理者）	登録年月日
1	建造物	吉澤家住宅煉瓦蔵	宮町	個人	平27.3.26

富士宮市若宮遺跡および黒田向林遺跡出土土器付着物の炭素14年代測定

小林謙一(中央大学)・深澤麻衣(袋井市教育委員会)・米田穣・尾崎大真・大森貴之(東京大学
総合研究博物館放射性炭素年代測定室)

はじめに

富士宮市史に伴う資料調査の一環としておこなった、静岡県若宮遺跡（富士宮市教育委員会 1983）出土縄紋草創期土器付着物および黒田向林遺跡出土縄紋早期土器付着物の分析結果につき、報告する。本測定は、東京大学総合研究博物館年代測定室との共同研究として実施した。

1. 遺跡および測定対象土器について

若宮遺跡は静岡県富士宮市小泉に位置する縄紋時代草創期末から早期を主体とした集落遺跡である。小高い丘陵から南向きの斜面一帯に広がり、調査の結果、東西120m、南北50mの範囲に竪穴住居跡28棟、炉穴跡60基、集石土坑跡13基などが発見されている。遺物は草創期の表裏縄紋土器から早期の撚糸文土器、格子目・山形・楕円などの押型文土器や、無文土器などの土器片、およそ15,000点が出土した。また、石器は有舌尖頭器、石鏸、石皿、磨石、凹石、石斧、石匙、石錐など2,715点が出土した。

黒田向林遺跡は静岡県富士宮市黒田に所在する縄紋時代早期後半を主とする遺跡である。星丘陵に発達する浸食谷の谷頭部左岸に位置し、20m×50m程度の細長い範囲の広がりが想定されている。土壌を伴う集石遺構が3基発見され、土器片は3,284点、石器は石鏸、石皿、磨石、敲石、石斧、石匙、スクレイパー類、石錐、石核の計293点が出土した。

若宮遺跡出土の測定対象土器については、以下のとおりである。

SZFJW-1は内外面に縄紋が施されており、SZFJW-2～9は外面のみに縄紋が施される土器片である。

SZFJW-1（1042）は、器面内外面に縄紋が施される表裏縄紋土器である。R原体を用いて内面は縦位回転、外面は横位回転して施文している。

SZFJW-2（1158）は、LR縄紋を横位回転して施文している胴部破片である。

SZFJW-3（1180）は、無節縄紋Rを横位回転して施文している胴部破片である。若宮遺跡に特徴的な軽鬆な胎土をもつ。

SZFJW-4（1175）は、LR縄紋を横位回転して施文している胴部破片である。軽鬆な胎土で纖維が含まれる。

SZFJW-5（1166）は、節が細長く密接したLR縄紋を横位回転で施文している。黒雲母が少量含まれる。

SZFJW-6（1192）は、無節縄紋Lを横位回転して施文している。軽鬆な胎土で纖維が含まれる。

SZFJW-7（1129）は胴部上半の破片で、LRの原体を横位回転して、器面全面に隙間なく施文している。胎土はやや緻密で多量の纖維が含まれる。

SZFJW-8（1131）は、無節縄紋Rを縦位回転して施文している口縁部破片である。縄紋施文後に口縁部を撫でている。比較的器厚が薄く、軽鬆な胎土をもつ。

SZFJW-9（1221）は、LR縄紋を横位と縦位に回転方向をかえて施文し、羽状に文様を施す胴部破片である。軽鬆な胎土である。

黒田向林遺跡出土の測定対象土器については、以下のとおりである。

SZFJK-4（409）は、条痕紋が施される土器の胴部破片である。胎土は黄褐色で、SZFJK-7よ

りやや緻密である。

SZFJK-7 (121) は、撚糸紋土器の胴部破片である。0段のr縄紋を巻き付けた絡条体を縦位に回転させて施文している。胎土は赤灰褐色で大粒の長石・石英、纖維を多く含み、報告書内では高山寺式土器の胎土に近いものとされる。

2. 分析試料

試料の採取は、若宮遺跡は2023年8月15日に、黒田向林遺跡は2024年3月18日に富士宮市埋蔵文化財センターにて採取した。

試料の前処理は、小林が国立歴史民俗博物館年代測定資料実験室において2023年3月20日におこなった。前処理については、これまでの方法によっている。エタノールで10分間の超音波洗浄をおこなった後、アセトンで10分間の超音波洗浄1回をおこなった。この操作で汚染の基となる油分や接着剤などの成分が除去されたと判断できる。

酸-アルカリ-酸 (AAA : Acid Alkali Acid) 処理として、酸処理では、1mol/l (1M) の塩酸 (HCl) を用いて80度で60分の処理を2回おこなった。アルカリ処理では各1Mの水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用いて、各60分の処理を、溶液に着色がほぼなくなるまで3~4回おこなった。酸による中和後、純水で6回洗浄しリトマス紙で中性となつたことを確認した。

表1. 分析対象試料一覧

試料記号	遺跡	出土区	部位	土器型式	備考	採取 mg	処理 mg
SZFWJ-1	若宮	110図1042	胴上内	表裏縄紋	×	5	
SZFWJ-2	若宮	115図1158	胴内	縄紋	×土	3	
SZFWJ-3	若宮	116図1180	胴外	縄紋	△土	20	20
SZFWJ-4	若宮	116図1175	胴外	縄紋	○	18	18
SZFWJ-5	若宮	116図1166	胴外	縄紋	○	43	43
SZFWJ-6	若宮	117図1192	胴外	縄紋	○	33	33
SZFWJ-7	若宮	114図1129	胴中内	縄紋	○	18	18
SZFWJ-8	若宮	114図1131	口縁内	縄紋	○	29	29
SZFWJ-9	若宮	118図1221	胴内	縄紋	○	28	28
SZFJK-4	黒田	9集19図409	胴内	条痕	○	76	38
SZFJK-7	黒田	9集8図121	胴上外	撚糸	○	37	37

3. EA-IRMS 測定結果

炭素および窒素の重量含有率および安定同位体比の測定は、Elementar社製の安定同位体比質量分析システム GeovisIONにより実施した。GeovisIONは、燃焼・熱分解元素分解装置 vario PYRO cubeと安定同位体比質量分析装置 isoprime visIONの二つから構成される。

安定同位体比の測定には、炭素、窒素の換算質量で、30~200 μg の試料を供する。EA分析用の錫コンテナで包んだ試料を、高純度Heガス気流中で燃焼させ、GeovisIONの標準的な測定/解析条件にもとづき、同位体比を導出した。 $\delta^{13}\text{C}_{\text{PDB}}$ 、 $\delta^{15}\text{N}_{\text{air}}$ への補正、および、測定誤差の算

出は、試料と同時に測定した昭光サイエンス社製アミノスタンダード、L-Alanine、L-Histidine、Glycine の同位体比、および、それら標準偏差にもとづく。C/N 比は mol 比として、以下の計算式による。[炭素・窒素モル比] = ([T-C] / 12.011) / ([T-N] / 14.0067)

表 2. 元素および安定同位体比の分析結果

資料名	測定 ID	$\delta^{13}\text{C}$	$\delta^{15}\text{N}$	炭素濃度	窒素濃度	C/N 比
SZFWJW-9	LRD03671	-25.3‰	3.5‰	47.2%	3.2%	17.4

4. 炭素精製およびグラファイト化

グラファイト化は 2024 年 3 月 18 日に東京大学年代測定実験室に依頼した。試料は、銀カップに秤量し、elementar 社製 vario ISOTOPE SELECT 元素分析計に導入し、燃焼後、精製された二酸化炭素を真空ガラスラインに導入し、あらかじめ鉄触媒約 2mg を秤量したコック付き反応管に水素ガス(炭素モル数の 2.2 倍相当)とともに封入して、650°Cで 6 時間加熱して実施した (Omori et al. 2017)。

表 3. グラファイト化の結果

資料名	グラファイト ID	試料重量	グラファイト化率	グラファイト重量	Fe 重量	C/Fe 比
SZFWJW-3	GR-19262	1.880 mg	104.9%	0.092 mg	4.29 mg	0.022
SZFWJW-4	GR-19263	0.239 mg	N.D.			
SZFWJW-5	GR-19264	1.971 mg	79.1%	0.34 mg	2.01 mg	0.169
SZFWJW-7	GR-19265	1.409 mg	97.7%	0.099 mg	4.36 mg	0.023
SZFWJW-8	GR-19266	2.617 mg	87.5%	0.40 mg	2.07 mg	0.193
SZFWJW-9	GR-19267	2.022 mg	83.8%	0.86 mg	1.94 mg	0.443
SZFJK-4	GR-19806	0.926 mg	86.1%	0.155 mg	3.99 mg	0.039
SZFJK-7	GR-19808	4.812 mg	91.2%	0.138 mg	4.01 mg	0.034

SZFWJW-4 については、炭素精製のための元素分析計で確認された炭素量が測定試料調整に必要な炭素量に満たなかったため、AMS 測定試料調整を行わなかった。

SZFWJW-3、SZFWJW-7 については、炭素精製のための元素分析計で確認された炭素量が 400μg 以下であったため、同等量の標準試料を用意し、微量炭素用のプロトコル (大森ら 2017) にてセメンタイトを生成し、AMS 測定を行った。表中のグラファイト量欄にはセメンタイト生成後の秤量値ではなく、炭素精製の際に見積もられた炭素量を記した。

5. AMS 測定結果

グラファイト化した炭素試料における放射性炭素同位体比の測定は、東京大学総合研究博物館が所有する加速器質量分析装置 (AMS) を用いて測定した。慣用 ^{14}C 年代 (BP 年代) を算出するために、同位体比分別の補正に用いる $\delta^{13}\text{C}$ 値は AMS にて同時測定した値を用いている (Stuiver and Polach 1977)。図 2 に個別の較正年代確率密度分布、図 3 に較正年代をまとめて配した図、図 4 に較正曲線 IntCal20 の上に各測定値を配した図を示す。

表4. 放射性炭素年代測定の結果

資料名	測定ID	^{14}C 年代	補正用 $\delta^{13}\text{C}$
SZFW-3	TKA-28782	$9118 \pm 72 \text{ BP}$	-29.8 ± 0.7 ‰
SZFW-4	N.A.		
SZFW-5	TKA-28819	$9592 \pm 30 \text{ BP}$	-29.4 ± 0.4 ‰
SZFW-7	TKA-28783	$9043 \pm 49 \text{ BP}$	-26.1 ± 0.6 ‰
SZFW-8	TKA-28820	$9840 \pm 31 \text{ BP}$	-31.0 ± 0.3 ‰
SZFW-9	TKA-28821	$9531 \pm 31 \text{ BP}$	-26.6 ± 0.3 ‰
SZFJK-4	TKA-29181	$8298 \pm 30 \text{ BP}$	-21.8 ± 0.4 ‰
SZFJK-7	TKA-29182	$8182 \pm 34 \text{ BP}$	-22.7 ± 0.4 ‰

^{14}C 年代の誤差は 1 標準偏差を示す。

表5. 推定される較正年代と注記 (cal BP 表記)

試料名	較正年代(1SD)	較正年代(2SD)
SZFW-3	10377 cal BP(68.3%)10207 cal BP	10499 cal BP(7.3%)10451 cal BP 10445 cal BP(88.1%)10179 cal BP
SZFW-4	N.A.	
SZFW-5	11084 cal BP(6.2%)11063 cal BP 11035 cal BP(10.7%)11001 cal BP 10969 cal BP(16.2%)10918 cal BP 10894 cal BP(35.1%)10786 cal BP	11144 cal BP(95.4%)10761 cal BP
SZFW-7	10240 cal BP(68.3%)10190 cal BP	10333 cal BP(0.3%)10326 cal BP 10293 cal BP(91.4%)10129 cal BP 10061 cal BP(1.2%)10042 cal BP 10021 cal BP(0.3%)10014 cal BP 9988 cal BP(2.3%)9963 cal BP
SZFW-8	11257 cal BP(68.3%)11217 cal BP	11314 cal BP(3.2%)11291 cal BP 11278 cal BP(92.3%)11197 cal BP
SZFW-9	11066 cal BP(16.8%)11029 cal BP 11006 cal BP(19.7%)10963 cal BP 10864 cal BP(2.3%)10856 cal BP 10796 cal BP(29.4%)10725 cal BP	11074 cal BP(45.6%)10941 cal BP 10879 cal BP(49.8%)10696 cal BP
SZFJK-4	9410 cal BP(35.4%)9349 cal BP 9326 cal BP(28.6%)9274 cal BP 9165 cal BP(4.3%)9154 cal BP	9427 cal BP(84.8%)9201 cal BP 9178 cal BP(10.6%)9141 cal BP
SZFJK-7	9199 cal BP(8.6%)9179 cal BP 9138 cal BP(59.7%)9025 cal BP	9272 cal BP(32.2%)9168 cal BP 9150 cal BP(63.2%)9017 cal BP

表6. 推定される較正年代と注記 (BC/AD表記)

試料名	較正年代(1SD)	較正年代(2SD)
SZFJW-3	8428BC(68.3%)8258BC	8550BC(7.3%)8502BC 8496BC(88.1%)8230BC
SZFJW-4	N.A.	
SZFJW-5	9135BC(6.2%)9114BC 9086BC(10.7%)9052BC 9020BC(16.2%)8969BC 8945BC(35.1%)8837BC	9195BC(95.4%)8812BC
SZFJW-7	8291BC(68.3%)8241BC	8384BC(0.3%)8377BC 8344BC(91.4%)8180BC 8112BC(1.2%)8093BC 8072BC(0.3%)8065BC 8039BC(2.3%)8014BC
SZFJW-8	9308BC(68.3%)9268BC	9365BC(3.2%)9342BC 9329BC(92.3%)9248BC
SZFJW-9	9117BC(16.8%)9080BC 9057BC(19.7%)9014BC 8915BC(2.3%)8907BC 8847BC(29.4%)8776BC	9125BC(45.6%)8992BC 8930BC(49.8%)8747BC
SZFK-4	7461BC(35.4%)7400BC 7377BC(28.6%)7325BC 7216BC(4.3%)7205BC	7478BC(84.8%)7252BC 7229BC(10.6%)7192BC
SZFK-7	7250BC(8.6%)7230BC 7189BC(59.7%)7076BC	7323BC(32.2%)7219BC 7201BC(63.2%)7068BC

較正年代の算出には、OxCAL4.2(Bronk Ramsey, 2009)を使用し、較正データには IntCal20(Reimer et al. 2020)を用いた。

6. 年代的考察

まず安定同位体比を見ると、今回は唯一 IRMS による測定用の分量が確保できた SZFJW-9において、 $\delta^{13}\text{C}$ 値が-25.3‰と-24～-26‰の範囲に含まれ、 $\delta^{15}\text{N}$ 値が 3.5‰と比較的低く、C/N 比が 17.4 と比較的高い数値を示し、陸性の植物質に由来する試料である可能性を示す。胴内面の焦げ付き状の付着物であることから、植物質食料を主体とする食材の煮炊きによる炭化物と考えられる。

以下、較正年代を検討していく上では、1950 年を起点として何年前か(cal BP)で表記し、 2σ (95.4%)の確率密度のうち、最も可能性が高い年代幅を取り上げてみていくこととする。通常は、1 の位は繰り上げ繰り下げして示すので、それに従い年代値を表記する。較正年代では、最も高い可能性がある年代を拾い、これまでの小林の測定結果による関東地方を中心とした土器型

式別の推定年代（小林 2019）に比定すると、それぞれ下記の様になる。

若宮遺跡出土の縄紋施文土器では、外面付着の SZFJW-3 は、10445 cal BP(88.1%)10180 cal BP に含まれる可能性が最も高く、早期前葉の撚糸紋土器群後葉平坂式並行の S3-4 期に相当する年代である。

同じく外面付着の SZFJW-5 は、11145 cal BP(95.4%)10760 cal BP に含まれる可能性が最も高く、早期前葉の撚糸紋土器群夏島式から稻荷台式並行の S3-2～3 期に相当する年代である。

内面付着の SZFW-7 は 10295 cal BP(91.4%)10130 cal BP に含まれる可能性が最も高く、SZFW-3 とほぼ同じ年代で、早期前葉の撚糸紋土器群後葉平坂式並行の S3-4 期に相当する。

同じく内面付着の SZFW-8 は 11280 cal BP(92.3%)11195 cal BP に含まれる可能性が最も高く、SZFW-5 に近い年代で、早期前葉の撚糸紋土器群夏島式にほぼ相当する S3-2 期に相当する。

同じく内面付着の SZFW-9 は 11075 cal BP(45.6%)10940 cal BP または 10880 cal BP(49.8%)10695 cal BP に含まれる可能性が最も高く、SZFW-5 とほぼ同じ年代で、早期前葉の撚糸紋土器群夏島式から稻荷台式並行の S3-2～3 期に相当する年代である。

黒田向林遺跡条痕紋土器内面付着の SZFJK-4 は、9425 cal BP(84.8%)9200 cal BP に含まれる可能性が最も高く、早期中葉の沈線文土器並行の S4 期に相当する年代である。

同じく黒田向林遺跡撚糸紋外面付着の SZFJK-7 は、9270 cal BP(32.2%)9170 cal BP または 9150 cal BP(63.2%)9015 cal BP に含まれる年代で、SZFJK-4 に比べやや新しい年代である可能性が高いが、早期中葉の沈線文土器並行の S4 期に相当する年代である。

以上、若宮遺跡の縄紋系土器については、SZEJW-8 が最も古い 11280～11200 cal BP 頃の可能性が高く、縄紋早期前葉の夏島式並行、SZFJW-5・9 の 2 個体がそれに同時期かやや新しい稻荷台式並行の時期と捉えられる。同じ縄紋系であるが、SZFJW-3・7 の 2 個体はやや新しい 10445～10130 cal BP 頃と撚糸紋終末頃の年代値であり、少なくとも SZFJW-5・8・9 よりは新しい段階と捉え得る。ついで、黒田向林遺跡の 2 点は、若宮遺跡の 1 群よりも新しく早期中葉の年代に含まれる。

これまでの東海地方西部での縄紋早期前半の年代測定例をみると、長泉町八分平 E 遺跡の撚糸文系土器が炭素 14 年代値で 9780～9370 ^{14}C BP (静岡県埋蔵文化財研究所 2011)、長泉町富士石遺跡の押型紋土器が 9360～9280 ^{14}C BP、相木式土器が 8025 ± 35 ^{14}C BP (水野 2011)、裾野市葛山大端ヶ III 遺跡の撚糸紋土器が 9820 ± 40 ^{14}C BP (静岡県埋蔵文化財センター 2013a)、裾野市富沢内野山 I 西遺跡の押型紋 (大平 A 式) 8420 ± 40 ^{14}C BP (小林・坂本 2013)、撚糸紋土器 9530 ± 30 ^{14}C BP、富沢内野山 IV 西遺跡押型紋土器 $9430 \sim 9360$ ^{14}C BP (静岡県埋蔵文化財センター 2013b) などの報告がある。今後も測定例を積み重ね、当該期の実年代を追求していく必要がある。

おわりに

本稿は、1 は深澤、2～5 は小林・米田・尾寄・大森、6 は小林・深澤協議により執筆した。

AMS 年代測定・IRMS 同位体比測定およびその解析は、日本学術振興会科学研究費助成基盤研究 (A) 「高精度年代体系による東アジア新石器文化過程—地域文化の成立と相互関係—」(課題番号 22H00019、研究代表小林謙一、2022～2026 年度)、中央大学基礎研究費「縄紋文化の基礎的研究」(2024 年度) によるものである。

引用文献

- Bronk Ramsey, C. 2009. Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon 51(4), 337-360.
- Omori, T., Yamazaki, K., Itahashi, Y., Ozaki, H., Yoneda, M., 2017 Development of a simple automated graphitization system for radiocarbon dating at the University of Tokyo. The 14th International Conference on Accelerator Mass Spectrometry.
- Reimer, P. J., Austin, W. E. N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Hajdas, I., J Heaton, T., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kromer, B., Manning, S. W., Muscheler, R., Palmer, J. G., Pearson, C., J. van der Plicht, C., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Sounthor, J. R., Turney, C. S. M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S. M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A., Talamo, S. 2020 The IntCal20 Northern hemisphere radiocarbon age calibration curve (0–55 cal kBP). Radiocarbon 62(4), 725-757.
- Stuiver, M., and H.A. Polach (1977). Discussion: Reporting of ^{14}C data. Radiocarbon 19(3), 355-363.
- 大森貴之、山崎孔平、樺澤貴行、板橋悠、尾崎大真、米田穣 2017 「微量試料の高精度放射性炭素年代測定」 第20回 AMS シンポジウム
- 小林謙一・坂本稔 2013 「静岡県富沢内野山I西遺跡出土土器付着物の炭素14年代測定」『裾野市富沢・桃園の遺跡群II』静岡県埋蔵文化財センター調査報告31集
- 小林謙一 2019 『縄文時代の実年代講座』同成社
- 静岡県埋蔵文化財研究所 2011 『八分平E遺跡』
- 静岡県埋蔵文化財センター 2013 a 『静岡県埋蔵文化財センター調査報告25 裾野市葛山の遺跡群』
- 静岡県埋蔵文化財センター 2013b 『静岡県埋蔵文化財センター調査報告31 裾野市富沢・桃園の遺跡群』
- 富士宮市教育委員会 日本道路公団名古屋建設局 静岡県教育委員会 1983 『若宮遺跡 西藤道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(II)』富士宮市文化財調査報告書第6集
- 富士宮市教育委員会 1986 『黒田向林遺跡』富士宮市文化財調査報告書第9集
- 水野蛍 2011 「静岡県富士石遺跡における縄文早期土器のAMS炭素14年代測定」『名古屋大学年代測定研究センター』XXII



図1 測定対象の土器 (S=1:3)

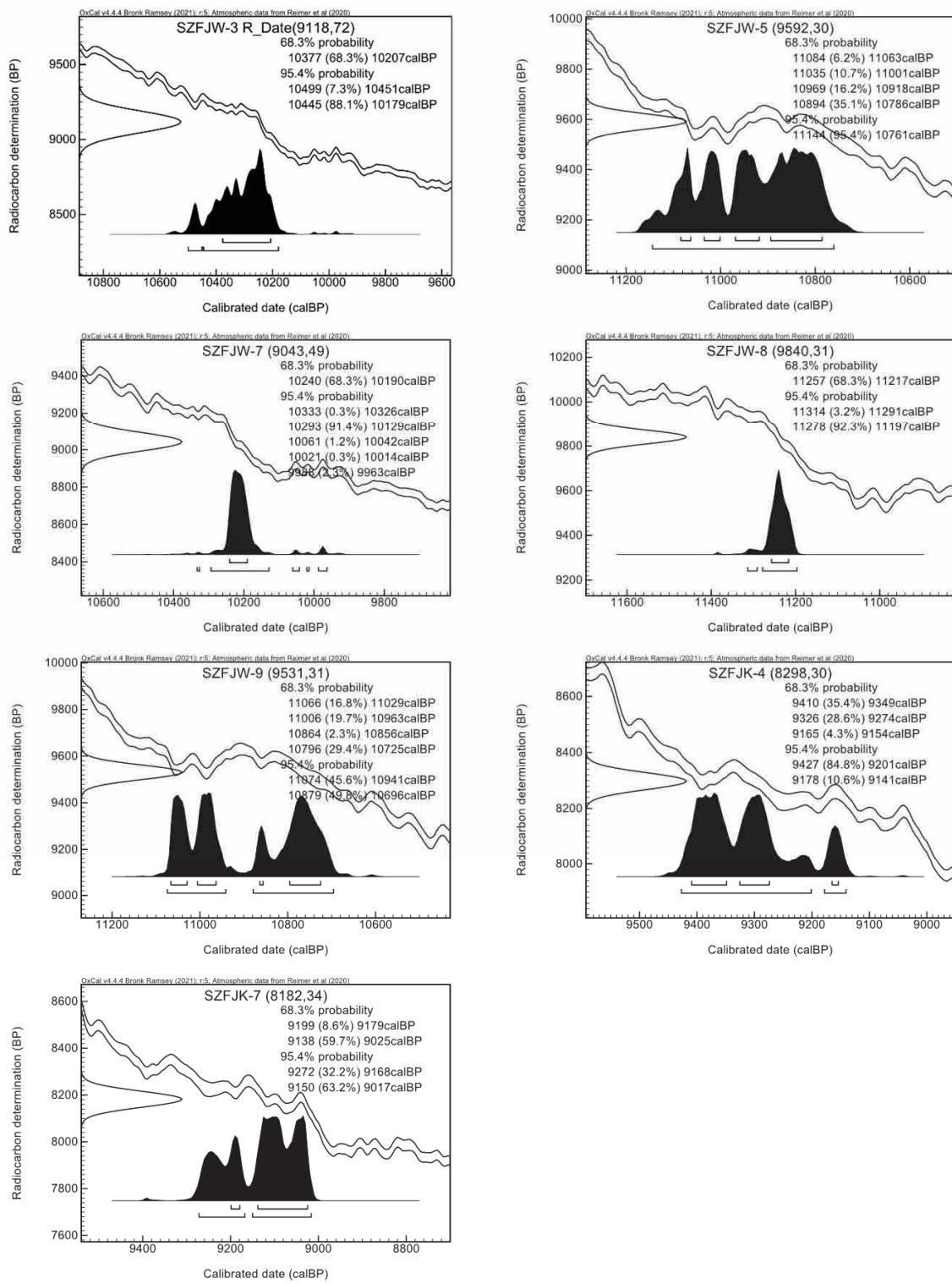


図2 若宮遺跡・黒田向林遺跡出土土器付着物の炭素14年代測定結果の較正年代確率密度分布 (IntCal20, × Cal4.4)

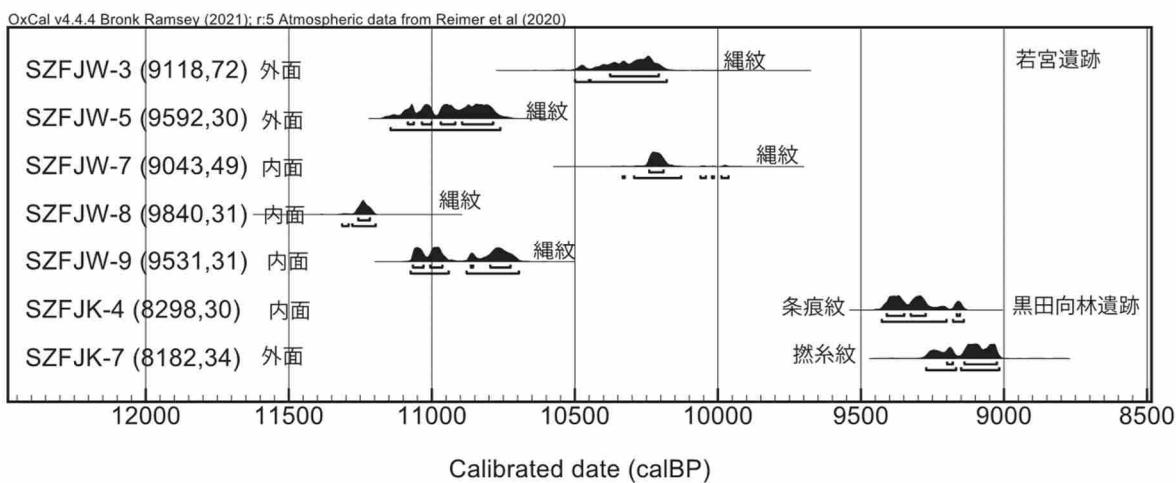


図3 若宮遺跡・黒田向林遺跡出土土器付着物の較正年代 (IntCal20,×Cal.4)

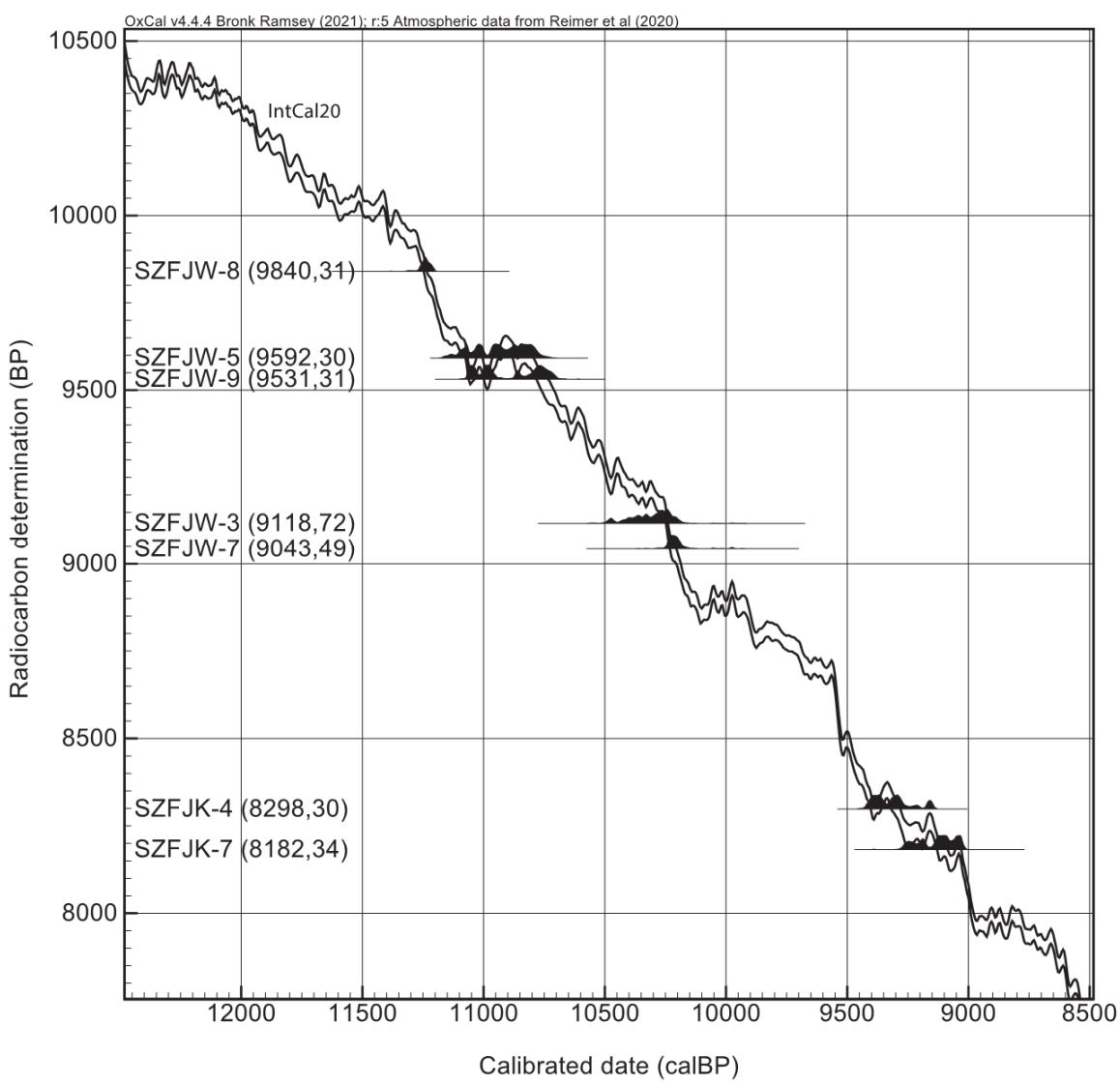


図4 若宮遺跡・黒田向林遺跡出土土器付着物の¹⁴C年代と較正曲線 (IntCal20,×Cal.4)

資料Ⅲ 市史編さん事業における調査成果

富士宮市滝戸遺跡のレプリカ法による土器圧痕の同定

佐々木由香（金沢大学古代文明・文化資源学研究所）・小久保竜也（東京大学大学院）・柴田実季
(東京都埋蔵文化財センター)・小林謙一（中央大学）

1 はじめに

レプリカ法による土器圧痕分析により、土器づくりの場に存在していた種実や昆虫を通して当時利用していた植物や土器づくりの環境が明らかになりつつある。しかし、東海地方東部の縄紋土器を対象とした圧痕調査は低調であった。ここでは、静岡県富士宮市滝戸遺跡から出土した縄紋時代後期初頭の土器から得られた圧痕について、レプリカ法によって圧痕のレプリカを作製して同定を行った。

2 試料および方法

調査対象は、2021年度の発掘調査時の雨天整理作業中に種実や昆虫らしき圧痕を肉眼で発見した1点である。レプリカの作製方法は、丑野・田川（1991）を参考にした。レプリカの作製にあたっては、まず圧痕内を水で洗い、パラロイドB72の9%アセトン溶液を離型剤として圧痕内および周辺に塗布した後、シリコン樹脂（JMシリコン レギュラータイプ）を圧痕部分に充填した。レプリカ作製後は、アセトンを用いて圧痕内および周囲の離型剤を除去した。

同定方法は、最初に実体顕微鏡下で圧痕レプリカを観察し、同定の根拠となる部位が残っている試料を抽出した。次に、特徴的な圧痕のレプリカについて、走査電子顕微鏡（KEYENCE社製 超深度マルチアンダルレンズVHX-D500/D510）による写真撮影を行った。また、計測が可能な試料は、走査電子顕微鏡で計測した。なお、圧痕レプリカは、中央大学考古学研究室に保管されている。

調査対象の土器（図1）は、滝戸遺跡の遺構外（旧耕作土層一括2021/8/6）から出土した、縦2.0cm、横2.2cm、厚さ1.0cmを測る口縁部の小破片である。内湾気味のキャリバー器形と思われ、口唇部は平坦に整えられ、口唇部下の外面に1本の太くやや深い沈線のみが施される。内面は平らにナデが施されている。胎土は緻密で、白色の砂粒を多く含む。焼成は良好で、硬い。砂粒を多く含む胎土や、平坦な口唇部、外面に施された太い沈線から試料は縄紋時代後期初頭の称名寺式と考えられ、外面の沈線による内面の突出がみられないことから称名寺I式でも新しい段階と推定される。圧痕は、土器片の内面に認められた。

3 結果

圧痕レプリカ1点は不明であった（表1）。

以下では、形態記載を行い、図版1に走査型電子顕微鏡写真を示す。なお、分類群の学名は米倉・梶田（2003-）に準拠し、APG IIIリストの順とした。

（1） 不明 Unknown

上面観は花弁状の切り込みをわずかにもついた円形で、中央部は円形に緩やかに窪む。側面観の片側には縦方向の深い溝と隆起があるが、反対側は不明瞭である。基部は残存せず不明。植物かどうかも不明であった。圧痕レプリカの大きさは、長さ1.75mm、幅2.11mm、残存厚1.43mm。

表1 滝戸遺跡の土器圧痕の同定結果（大きさの括弧は残存値を示す）

試料番号	土器型式	器種	圧痕残存部位	圧痕残存面	分類群	部位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	備考
1	称名寺式	深鉢	口縁部	内面	不明	不明	1.75	2.11	(1.43)	

4 考察

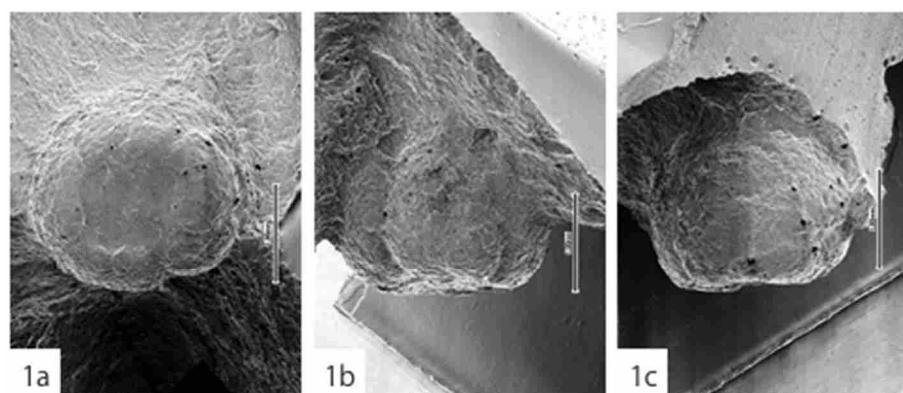
圧痕は種別も部位も不明であったが、何らかの有機物が土器の胎土中に混入した痕跡の可能性がある。事例の蓄積をまって将来的には再検討をおこなう必要があると考え、ここに報告する。

本稿は、土器圧痕からのレプリカ採取と土器観察、記載を柴田が、走査電子顕微鏡撮影と同定、同定記載を佐々木・小久保が執筆し、小林がまとめた。

謝辞 試料は富士宮市による2021年度の滝戸遺跡の調査による出土試料である。土器の資料化に伴う調査参加はJSPS科研費(JP20H05814)、レプリカの走査電子顕微鏡観察にかかる経費はJSPS科研費(JP20H05811)の一部を使用した。試料の採取には深澤麻衣(当時:富士宮市教育委員会)、原悠翔(富士宮市教育委員会)、本稿の編集には小林尚子の助力を得た。

引用文献

- 丑野 豪・田川裕美(1991)「レプリカ法による土器圧痕の観察」『考古学と自然科学』24, 13-36
米倉浩司・梶田 忠(2003-)『BG Plants 和名一学名インデックス(YList)』<http://ylist.info>



図版1 滝戸遺跡出土土器の圧痕レプリカの走査型電子顕微鏡写真 (1)

a: 上面観 b・c: 側面観

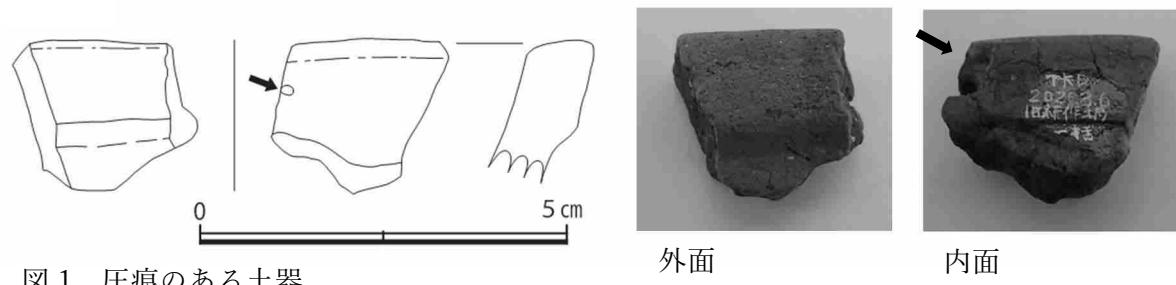


図1 圧痕のある土器

富士宮市文化財年報 第 15 号

令和 7 年 12 月 19 日

編集 富士宮市教育委員会

発行 富士宮市教育委員会

静岡県富士宮市弓沢町 150 番地

電話 (0544) 22-1111(代)

印刷 株式会社きうち印刷